取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

このたびは*SUCCEED*をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は**サクシード**の取り扱いについてドライバーの動作にそって説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

- 運転は交通ルール・マナーを守り、自然環境保護にも気をくばりましょう。
- メーカーオプションのDVDナビゲーションシステムを装着された方は、別冊の「DVDナビゲーションシステム取扱書」も併せてお読みください。
- トヨタ販売店で取りつけられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。
- 装備については、販売店でカタログをご請求ください。
- ご不明な点は、担当営業スタッフにおたずねください。

●保証および点検整備については、「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

●トヨタ販売店の所在地および連絡先は、サービス網／お客様相談テレホン網として「メンテナンスノート」に記載しています。

●取扱書はいつでも見られるように、メンテナンスノートとともにお車に大切に保管してください。

●お車をゆずられるときは、次のユーザーのために、この取扱書およびメンテナンスノートをお車につけておいてください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の構成

本書は次の8章から構成されています。
とくに第1章の「安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと」は重要です。しっかりとお読みください。

第1章：安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので、必ずお読みください。

第2章：基本操作早わかり

はじめてこの車にお乗りいただくかたのために、基本操作を簡単に説明しています。

第3章：運転装置の取り扱い

ドアの開閉、シート、シートベルト、エンジンのかけ方、シフトレバー、メーター、スイッチなどの取り扱いを説明しています。

第4章：室内装備の取り扱い

エアコン、ラジオ、室内装備品（時計、カップホルダーなど）の取り扱いを説明しています。

第5章：安全・快適装備の解説と注意

ＳＲＳエアバッグ、ＡＢＳなど安全・快適装備についての機能説明と取り扱い上の注意を説明しています。

第6章：車との上手な付き合い方

季節による取り扱い、環境にやさしい経済的な運転方法などについて説明しています。

第7章：メンテナンス

車の手入れのしかたと日常点検について説明しています。

第8章：万一のとき

故障やパンクしたときなど、万一のときに必要な処置方法について説明しています。

表示について

安全に関する表示

「運転者やほかの人が傷害を受ける可能性のあること」や「車両の故障や破損につながるおそれがあること」と、その回避方法を下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、必ず読んで遵守してください。

記載事項をお守りいただかないと、重大な傷害や事故・車両火災におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあること。

記載事項をお守りいただかないと、傷害、車両の故障や破損につながるおそれがあること。

その他の表示

「知っておくと便利なこと」・「知っておいていただきたいこと」を下記の表示で記載しています。

知 識

知っておくと便利なこと。
知っておいていただきたいこと。

イラストのマークについて

してはならない行為を示すイラストには、下記のマークが記載されています。

してはならない行為。

操作説明（3～8章）の見方

操作説明（3～8章）の基本的な読み方について説明しています。

タイトル
階層により区別してあります。

★
グレード等により装着の有無が異なることをお知らせします。

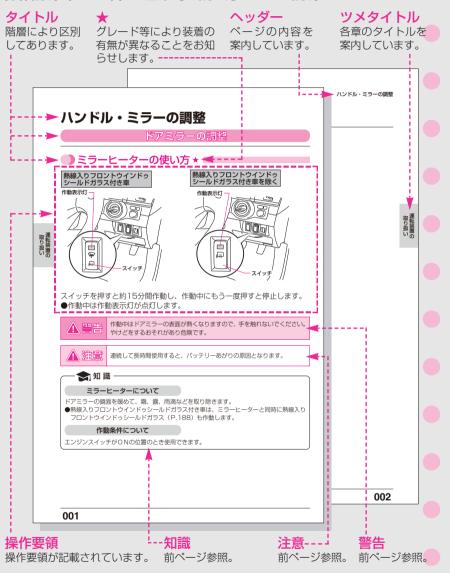
ヘッダー
ページの内容を案内しています。

ツメタイトル
各章のタイトルを案内しています。

操作要領
操作要領が記載されています。

知識
前ページ参照。

注意
前ページ参照。

警告
前ページ参照。

■本書では新計量法の施行に伴い、国際単位系（略称ＳＩ単位）を基本に記載し、従来単位を ｛ ｝ 内に記載してあります。

※ このページはサンプルですので、記載内容は実際の車とは異なります。

検索方法について

本書では、お客様が知りたいことを素早くお読みいただけるよう、次のような工夫がしてあります。

タイトルからさがす

取りつけ位置からさがす

名称からさがす

警告灯からさがす

症状からさがす

目　次

イラスト目次

インストルメントパネル

※装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

イラスト目次

室　　内

※装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

イラスト目次

車　両　外　観

※装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

1

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので必ずお読みください。

1．点検整備実施のお願い

点検整備を必ず実施してください。
実施していただかないと、重大な車両故障につながるおそれがあり危険です。

①点検整備を必ず実施してください。

●日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。
日常点検（P.310参照）や定期点検など、点検整備の詳細については、**「メンテナンスノート」**をお読みください。
- 定期点検は、安全の確保・公害防止の観点から、定期的に実施する点検です。定期点検整備は、専用の整備機器、指定の油脂類、交換された部品・油脂類の適切な処理などが必要なため、トヨタ販売店にご相談ください。

●点検整備は自動車の健康診断です。
定期的な点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施することが、末永く車と付き合っていくうえで最も大切なことです。

●点検整備を実施しないと、例えばエンジンオイルの不足・劣化によりエンジン内部が焼きつきなどを起こすおそれがあります。また、ブレーキパッドやブレーキディスクなど、その役割を果たすと共に摩耗していく部品については、使用限度（摩耗限度）を越えての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結びつくおそれもあります。

●日常点検で異常があったり、車の調子が悪い場合には、トヨタ販売店にご相談ください。

お出かけ前に、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①窓ごしなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

●思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。

②低水温表示灯（緑色）が消灯するまでは、極端にアクセルペダルをあおらないでください。

●暖機不足の状態では触媒装置が未燃焼ガスにより異常燃焼を起こし、損傷するおそれがあります。
●暖機は低水温表示灯（緑色）が消灯する程度で十分です。

③走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

●ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときは、半ドア警告灯（P.203）が点灯します。

④フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などがついているときは取り除いてください。

●外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなり、雨天時など車内の湿度が上がり、ガラスが曇ったりして視界が悪くなるおそれがあります。

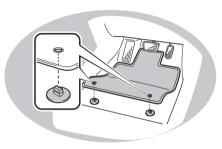
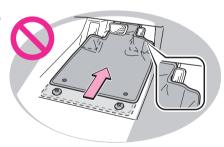
⑤停車中にハンドル位置を調整したときは、確実に固定されていることを確認してください。

●ハンドルの固定が不十分だと、走行中にハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥運転席足元、運転席下にものを置かないでください。

●空缶などがあると、ブレーキペダルやアクセルペダルに挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、シートの動きがさまたげられたり、シートが固定できず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦フロアマットはお車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあり危険です。
- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、以下のことを確認してください。
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行ってください。
- エンジン停止およびシフトレバーが🅟（オートマチック車）または🅝（マニュアル車）の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

⑧助手席や後席に荷物を積み重ねないでください。

●急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●荷物はラゲージルームに安定した状態（例えば、ラゲージルーム前方に均等に）で置いてください。

⑨燃料が入った容器やスプレー缶などは積まないでください。

●万一のとき引火し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑩ボンネットを開けて作業などをしたときは、走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

●ロックせずに走行すると、ボンネットが開いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- ●いつもと違う音や臭いや振動がするとき。
- ●ハンドル操作に異常を感じたとき。
- ●ブレーキ液が不足しているとき。
- ●地面に油のもれたあとが残っているとき。
- ●メーター・表示灯・警告灯、ランプ類に異常があるとき。

⑫お酒を飲んでの運転は絶対にしないでください。

- ●飲酒運転は法律で禁止されています。
- ●飲酒運転は非常に危険で、ごく少量のアルコールでも判断力・視力・注意力に影響をおよぼし、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

⑬エンジンルーム内および車体床下に、ネコやネズミなどの小動物がいないことを確認してください。

- ●エンジン始動時、ファンやベルトに小動物が巻き込まれたりして、機能不具合の原因となるおそれがあります。

3. 燃料補給時の注意

**燃料を補給するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、燃料に引火して、やけどなどの重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

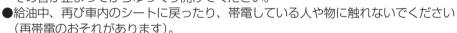
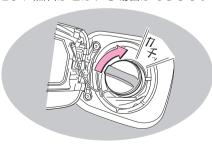
①指定以外の燃料を使用しないでください。

●指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。

●指定以外の燃料（粗悪ガソリン・灯油・高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使用すると、エンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

②燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

●エンジンは必ず停止してください。
●車のドア、窓は閉めてください。
●タバコなど火気を近づけないでください。
●フューエルリッド、フューエルキャップを開けるときなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。
●フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミを持ち、ゆっくりと開けてください。
気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
フューエルキャップを少しゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。
その音が止まってからゆっくり開けてください。

ツマミ部分

●給油中、再び車内のシートに戻ったり、帯電している人や物に触れないでください（再帯電のおそれがあります）。
●給油口には静電気除去を行ったかた以外の人を近づけないでください。
●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
●給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。
●車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
●その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

③給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。

●燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、注意してください。

4. 走行するときの注意

走行するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①走行中はエンジンを停止しないでください。

●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●マニュアル車は、キーを“ＬＯＣＫ”にするとキーが抜け、ハンドルがロックされハンドル操作できなくなるおそれがあります。

②走行中はハンドル位置やミラー・運転席シートの調整はしないでください。

●調整中に運転を誤ったり、シートが突然動くなどして思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③ドアミラーを倒したまま走行しないでください。

●ドアミラーによる後方確認ができず思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④マニュアル車は、クラッチペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行わないでください。

●クラッチが早く磨耗したり、過熱し、クラッチが破損することで、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤ブレーキペダルに足をのせたり、パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

●ブレーキパッドが早く摩耗したり、ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥下り坂ではエンジンブレーキを併用してください。

●ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

⑦車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。

●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●オイルの温度が上がりすぎたり潤滑不良を起こし、パワーステアリング装置を損傷するおそれがあります。

⑨ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は運転中に使用しないでください。

- ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が運転中に使用することは、法律で禁止されています。
- 電話をかけるときや、電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が使用するときは、安全な場所に停車してから使用してください。

⑩ぬれた路面や積雪路・凍結路などのすべりやすい路面では、とくに慎重に走行してください。

- すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車を制御できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 寒いとき、橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

⑪冠水した道路は走行しないでください。

●冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
- ブレーキの効き具合。
- エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD車）・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
- プロペラシャフト（4WD車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

⑫大きな段差がある場所では慎重に走行してください。

●次のような場所を走行するときは、バンパーを損傷するおそれがありますので、スピードをおとして慎重に走行してください。
- 駐車場の出入り口などの段差のある場所を通過するとき
- 立体駐車場のスロープなど勾配が急な場所を走行するとき
- 輪止めなどのある場所や、路肩に沿って駐停車するとき
- 凹凸やわだちのある道を走行するとき
- くぼみ（穴）などを通過するとき
- 平坦な道から上り坂・下り坂に進入するとき、または上り坂・下り坂から平坦な道に進入するとき

⑬湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にしないでください。

●外気とウインドゥガラスの温度差でウインドゥガラス外側表面が曇り、視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑭スタック※したときは

※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

●スタックからの脱出をこころみるときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで、ものを損傷させたり、人身事故を引き起こすおそれがあり危険です。
●タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品（ディファレンシャルギヤなど）の異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスミッションやディファレンシャルギヤなどに損傷をあたえるおそれがあるため、次のことに注意してください。
- オートマチック車は、シフトレバーを🅓（または🅡）に確実に入れてから、アクセルペダルを軽く踏んでください。また、シフトレバー操作中は、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
- 過度の空ぶかしやタイヤの空転をさせないでください。
- 過度にタイヤが空転した場合には、エンジン回転が低くなってからブレーキ操作をしてください。
- 数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。

●スタック脱出には、次の方法が有効です。
- タイヤ前後の土や雪を取り除く。
- タイヤの下に木や石などをあてがう。

●けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。

⑮洗車後や水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。

●ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

⑯走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、頭などを強く打ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑰窓から手や顔を出さないでください。

●走行中、手や顔を出していると、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に頭を窓枠にぶつけたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑱ドアガラスを開けるときや閉めるときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりすると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑲センターボックスや小物ケースのフタを開けたまま走行しないでください。

●急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑳ウインドゥガラスにアクセサリーを取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に物を置いたまま走行しないでください。

●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に安全運転のさまたげになり、事故につながるおそれがあります。

㉑走行中はドアレバーを引かないでください。

●走行中は、ドアレバーを引かないでください。
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

5. 走行中、異常に気づいたら

走行中、異常に気づいたら、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①警告灯が点灯・点滅したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。

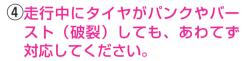
●点灯・点滅したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。警告灯の内容を確認し、適切な処置をしてください。（P.194参照）

②ブレーキ警告灯が点灯したまま走行し続けないでください。

●警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。
- エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき。
  この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。
- ブレーキ警告灯がＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのとき。
  この場合、ＡＢＳ＆ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

③エンストしたときは、落ち着いて操作してください。

●エンストしたときは、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングの油圧装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合は、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れて操作し、周囲の安全を確かめ、路肩に寄せて停車してください。

④走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。

●ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●次のようなときはパンクやバーストが考えられます。

- ハンドルが取られるとき。
- 異常な振動があるとき。
- 車両が異常に傾いたとき。

●パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイールやサスペンション・車体に損傷をあたえるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。

⑤車体床下やタイヤ・ディスクホイールに強い衝撃を受けたら、ただちに安全な場所に車を止めて、下まわりを点検してください。

●ブレーキ液や燃料がもれたり、サスペンション部品・タイヤ・ディスクホイール・駆動系部品などの変形や損傷の可能性があるため、そのままの状態で使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●もれや損傷が見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店にご相談ください。

⑥走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（“キーキー”音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●警告音は、ブレーキパッドウェアインジケーターによるもので、走行中に警告音（“キーキー”という金属音）を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近づいたことを運転者に知らせます。
警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
●警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください。

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

6. 駐停車するときの注意

駐停車するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止し、施錠してください。

●車から離れるときは、必ずエンジンを停止して、施錠することが法律で義務づけられています。また車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

●車から離れるとき、以下のことを守ってください。お守りいただかないと、車が無人で動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- シフトレバーをオートマチック車ではⓅ、マニュアル車では❶かⓇに入れる。
- パーキングブレーキをかける。
- エンジンを停止する。
- ドアを施錠する。

②可燃物付近に車を止めたりしないでください。

●車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災につながるおそれがあり危険です。

●木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を約30cm以上離して止めてください。すき間が少ないと、排気ガスによって変色や変形したり、火災につながるおそれがあり危険です。

●枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると、火災につながるおそれがあり危険です。

③寒冷時、パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。（P.278参照）

●輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④停車中に空ぶかしをしないでください。

●排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤炎天下で駐車するときは、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置したままにしないでください。

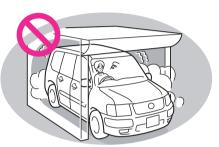
●車内が大変高温になるため、ライターやスプレー缶のガスが自然にもれたり、破裂したりして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●炭酸飲料の缶が破裂したりして室内を汚したり、電気部品のショートの原因となるおそれがあります。
●車内が大変高温になるため、プラスチックレンズやプラスチック素材のメガネの変形・ひび割れを起こすことがあります。

⑥仮眠するときは、必ずエンジンを停止してください。

●エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の急発進による事故や、エンジンの異常過熱による車両火災につながるおそれがあり危険です。
また、排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

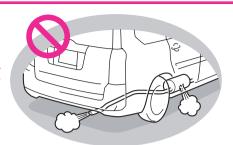
7. 排気ガスに対する注意

次の事項を必ず守ってください。
排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれており、お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①換気が悪い場所では、エンジンをかけたままにしないでください。

●車庫内など囲まれた場所では、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

②雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

●エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

③排気管はときどき点検してください。

●排気管の腐食などによる穴やき裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●排気管は排気ガスにより高温になります。点検などで排気管に触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。

④バックドアを開けたまま走行しないでください。

●開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

⑤車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、次の処置をしてください。

●すべての窓を全開にしてください。

●空調の内外気切り替えを外気導入側にして風量を最大にし、新鮮な外気を車内に入れてください。

●すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスにより、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

8. お子さまを乗せるときの注意

お子さまを乗せるときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①お子さまはリヤシートに座らせてください。

●助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●お子さまをリヤシートに座らせたときは、チャイルドプロテクターを使用してください。お子さまが誤って車内からドアを開けることを防止できます。
チャイルドプロテクターの使用方法は、P.108をお読みください。

②お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。

●ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。（P.138参照）

●シートベルトの肩部ベルトが首やあごに当たったり、腰部ベルトが腰骨にかからないような小さなお子さまには、お子さまの身体に合った子供専用シートを使用してください。子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

③お子さまをシートベルトで絶対に遊ばせないでください。

●お子さまがシートベルトで遊んで万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

④ドア・ドアガラスなどはお子さまに操作させないでください。

●お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●チャイルドプロテクター（P.108）やウインドゥロックスイッチ（P.118）を使用して、お子さまが誤って操作しないようにしてください。また、ドアガラスを開けるときや閉めるときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないように注意して操作してください。

⑤車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。

●炎天下の車内は大変高温となり、お子さまを残しておくと、熱射病や脱水症状となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●お子さまを残しておくと、マッチ・ライター・発炎筒の火遊びによる車両火災につながるおそれがあり危険です。
●エンジン スイッチにキーをつけたまま車内にお子さまを残しておくと、パワーウインドゥのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対にキーをつけたままお子さまを車内に残さないでください。

1. シートについての注意

**シートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①シートは正しい運転姿勢が取れるように位置を調整してください。

●正しい運転姿勢を取らないと、運転操作を誤り思わぬ事故につながるだけでなく、シートベルト・ＳＲＳエアバッグ・ヘッドレストなどの効果が発揮されず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
正しい運転姿勢については、P.128をお読みください。

②シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。

●固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③走行中はシートの操作をしないでください。

●ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

④背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。

●必要以上に背もたれを倒していると、衝突、または追突されたとき、腰部ベルトが腰骨からずれ、身体がシートベルトの下にもぐり込み、強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。

●正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑥ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

⑦ヘッドレストは、それぞれのシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。

●ヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

⑧リヤシートの前倒しについては次のことをお守りください。

●倒した背もたれの上やラゲージルームに人をのせて走行しないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●リヤシートを前倒ししたときは、お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●背もたれをもとにもどしたときは、軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと、急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、ラゲージルーム内のものが飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●背もたれを倒すときやもとにもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷つくおそれがあり、傷ついたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

2. 子供専用シートについての注意

**子供専用シートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①車のシートベルトが正しく着用できない小さなお子さまには、身体に合った子供専用シートに座らせてください。

●乳児は、頭や首を含め完全な安全保護サポート（ベビーシート）が必要です。乳児の首は安定していなくて、また頭はほかの部分に比べて極めて重いからです。乳児は、必ず適切なベビーシートに座らせてください。
●幼児の体形は、シートベルトの設計対象となっている大人とは異なっています。幼児の骨盤は小さく、通常のシートベルトでは骨盤の低い位置にとどまらず、腹部にかかってしまいます。衝突した場合に、シートベルトによって腹部に強い圧迫を受け重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。幼児は必ず適切な子供専用シートに座らせてください。

②子供専用シート・チャイルドシート使用するときは、必ず商品に付属の取扱書をよくお読みのうえ、確実に取りつけ、使用方法を守ってご使用ください。

●使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●子供専用シート・チャイルドシートについては、トヨタ販売店にご相談ください。
●子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。

③子供専用シートは確実に固定できるように取りつけてください。

子供専用シートは、取りつけ位置や取りつけ方向に注意をして確実に取りつけてください。取りつけが不適切な場合、急ブレーキや衝突したときなどに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■子供専用シートはリヤシートに取りつけてください。

●運転席側リヤシートで、運転席の位置により、安全に取りつけられる十分なスペースが確保できない場合は、子供専用シートを無理に取りつけず、助手席側リヤシートに取りつけてください。

⚠ 警　告　　助手席SRSエアバッグ

このシートに、ベビーシートを取り付けたり
後向きのチャイルドシートを取り付けないでください。
また、絶対にお子さまを前席の前に立たせたり
膝の上に抱いたりしないでください。

エアバッグの衝撃により、死亡または重大な傷害に
至るおそれがあります。

■助手席ＳＲＳエアバッグ装着車では、助手席には、子供専用シートをうしろ向きに絶対に取りつけないでください。

●うしろ向きに取りつけた場合、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。
助手席サンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

●やむを得ず、前向きに助手席に子供専用シートを取りつける場合には、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの衝撃を少しでも緩和させるため、助手席シートの前後位置調整を一番うしろにして取りつけてください。
お守りいただかないと、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、お子さまに強い衝撃が加わり危険です。

④子供専用シートを車両に搭載するときは、以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

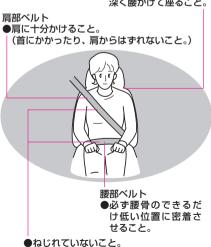
●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

3. シートベルトについての注意

シートベルトについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車に乗るときは、全員がシートベルトを正しく着用してください。

シートベルトを着用しなかったり、正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。また、車外に投げ出されたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトの着用は法律で義務づけられています。運転者は乗員全員が次の使用方法にしたがって、シートベルトを正しく着用しているかを確認してから走行してください。

〈正しい着用のしかた〉

■シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰かけた状態で着用してください。

●正しい姿勢については、P.128をお読みください。

■3点式シートベルトの肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。

●3点式シートベルトの肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるように着用してください。

●ベルトを通す位置が間違っていると、衝突時に、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

■アジャスタブルシートベルトアンカー（P.142）を確実に調整してください。

●シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。

●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

■**シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。**

●シートベルトの腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときに、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

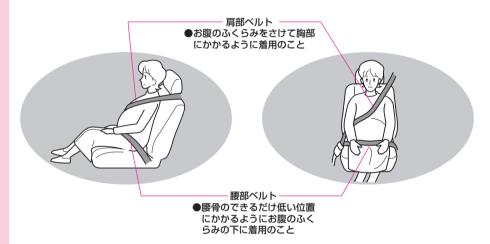
■**シートベルトは必ず１人で１本のベルトを着用してください。**

●2人以上で1本のシートベルトを着用すると、シートベルトが衝撃を分散できないばかりか、2人がぶつかり合うなどして危険です。

②妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

●妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみをさけて胸部にかかるように着用してください。

●ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

③疾患のあるかたも必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

④シートベルトは、ねじれやゆるみがなく確実にロックされた状態で着用してください。

正しい運転姿勢でもシートベルトがねじれていたり、ゆるんでいたり、確実にロックをしていない場合には、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができず危険です。

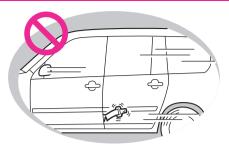
●ベルトがねじれている場合は、正しく装着できるようほどいてください。ねじれがうまくほどけない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■洗濯ばさみやクリップなどでシートベルトにたるみをつけて使用しないでください。

●肩部ベルトがゆるすぎると、衝突の際、ベルトで身体が拘束されるまでの移動量が大きくなり、ベルトが胸部などを圧迫して危険です。また、頭をハンドルにぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

■プレートをバックルに差し込むときは、プレートとバックルが“カチッ”と音がして確実にかみ合っていることを確認してください。

●異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトがはずれて危険です。

⑤シートベルトを損傷させたり、損傷したシートベルトは使用しないでください。

損傷したシートベルトをそのまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。挟まると傷がつくおそれがあり、そのまま使用すると危険です。

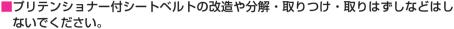
■ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷ついたシートベルトは使用しないでください。衝突したときなどに本来の機能が十分発揮できなくなります。

●このまま使用すると、衝突のときなどにベルトが切れる可能性があります。また、正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。

●シートベルトが正常に機能しない場合は、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。

■シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどをしないでください。

●衝突したときなどにシートベルトが正常に作動しなくなります。シートベルトの取りつけ・取りはずし・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■プリテンショナー付シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどはしないでください。

●プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがありますので、修理は必ずトヨタ販売店で行ってください。

■プリテンショナー付シートベルトは再使用しないでください。

●作動するとＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。強度が低下します。

●シートベルトの性能が低下し、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。

●清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

⑥リヤシートベルトをシートの中に押し込んだ状態で使用しないでください。

押し込んだままの状態で使用すると衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

4. ＳＲＳエアバッグについての注意

**ＳＲＳエアバッグについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

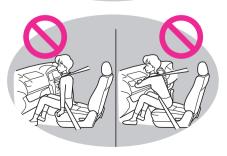
①ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。

正しい姿勢でシートに座り、シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないだけでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
シートベルトの正しい着用については、P.138をお読みください。

■シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。

●ＳＲＳエアバッグの展開部に覆いかぶさったり、近づきすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

《運転者のかたは》
運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。

《助手席乗員のかたは（助手席ＳＲＳエアバッグ装着車）》
助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シート前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。
シートの調整・正しい姿勢については、P.128をお読みください。

■ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔に当たったり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。

■助手席ＳＲＳエアバッグ装着車では、お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

②車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取りつけ・分解・修理などをするときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。
不適切な作業を行うと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ危険です。

●サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、ＳＲＳエアバッグが誤作動し危険です。

●車両前部、または車両客室部の修理をするときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。不適切な修理を行うと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

③カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。

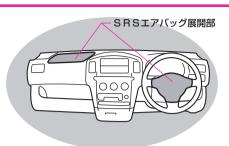
お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。
ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

●助手席ＳＲＳエアバッグ装着車では、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに飛ばされるなどして危険です。

●無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがあり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●車両前部にグリルガードやウインチなどを装着する場合は、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。

④ＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたかないでください。

●ステアリングパッド（運転席エアバッグ）、インストルメントパネル上部（助手席エアバッグ）など、ＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたくなど、過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品に触れないでください

●構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

5. ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシストについての注意

ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシストについては、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

警告

①ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシストを過信しないでください。

●ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。
- ＥＢＤ付ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※が起こった場合は、効果を発揮できません。

※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●ＥＢＤ付ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。
次の場合などは、ＥＢＤ付ＡＢＳのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。
- 砂利道、新雪路を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。

●ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。

1. オートマチック車についての注意

オートマチック車については、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

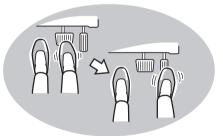
①オートマチック車の特性

■クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフトレバーが🅟・🅝以外にあると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といいます。

■キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。これをキックダウンといいます。

②運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。

●アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●後退するときは、身体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

●車を少し移動させるときも正しい運転姿勢を取り、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

③ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。

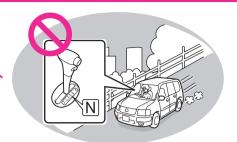
●左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④エンジンをかけるときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、エンジンをかけてください。

●安全のためシフトレバーは車輪が固定されるⓅにして、ブレーキペダルをしっかり踏みエンジンをかけてください。

⑤発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

●とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
●レバー操作は絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥走行中はシフトレバーをⓃに入れないでください。

●Ⓝにすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●Ⓝにしたまま長時間走行すると、オートマチックトランスミッション内のオイルの潤滑が悪くなり、故障するおそれがあります。

⑦走行中はシフトレバーをⓅに入れないでください。

●オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧前進で走行中は、シフトレバーをⓇに入れないでください。

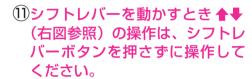
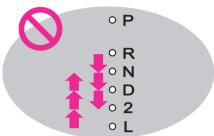
●車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

⑨停車中は、空ぶかしをしないでください。

●シフトレバーがⓅ・Ⓝ以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩駐車するときは、シフトレバーをⓅに入れてください。

●Ⓟ以外にある場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪シフトレバーを動かすとき⬆⬇（右図参照）の操作は、シフトレバーボタンを押さずに操作してください。

●いつもレバーボタンを押して操作していると意に反してⓅ・ⓇまたはⓁに入れてしまい、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑫坂道などでは、シフトレバーをⒹ（または②Ⓛ）に入れたまま惰性で後退することは絶対にしないでください。

●同様にⓇに入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

⑬その他にも以下の点に注意してください。

●少し後退したあとなどは、シフトレバーがⓇにあることを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐⓃにもどすよう習慣づけましょう。
●切り返しなどでシフトレバーをⒹからⓇ、ⓇからⒹと何度もレバー操作をするときは、その都度、ブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。またシフトレバーの位置も忘れずに確認してください。

2. 4WD車についての注意

4WD車については、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害におよぶおそれがあり危険です。

①無理な運転は禁物です。

●この車の4WD（Vフレックスフルタイム4WD）は、オンロード専用です。
オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした4WDですので、無理な運転はしないでください。

②すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

●4WD車といっても万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

③脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

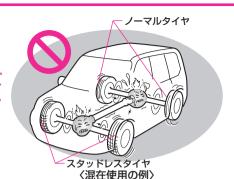
●前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼きつきなどの損傷を受けたり、焼きつきにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④渡河などの水中走行はしないでください。

●渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

●万一、水中につかってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。

- ブレーキの効き具合。
- エンジン・トランスミッション・トランスファー・デフなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

⑤タイヤはすべて必ず指定サイズで、同一種類のタイヤを装着してください。

〈混在使用の例〉

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
●タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響をあたえるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
  ●4輪の空気圧の差が著しいとき。
  ●空気圧が指定値からはずれているとき。
●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.291参照）
●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.330参照）

メンテナンスについて

1. 点検・手入れ時の注意

点検・手入れ時は、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
点検整備の詳細については「メンテナンスノート」をお読みください。

①エンジンルームを点検するときは、必ずエンジンを停止してください。また、火気を近づけないでください

●エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり近づいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジンが停止していても、冷却水温が高いときは、冷却ファンが急にまわり出すことがありますので、注意してください。なお、火気をバッテリーや燃料配管に近づけないでください。爆発し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

②エンジン停止直後はエンジン・排気管・ラジエーター・リザーブタンク（補助タンク）など高温部には触れないでください。

●やけどをするおそれがあります。なお、オイルやその他の液体も高温になっていることがありますので注意してください。

③エンジンルーム内に水をかけないでください。

●エンジンルーム内に水をかけると、電装品がショートしたりして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

④車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。

●ラジオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。

●ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、さびてブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。

⑥ヒューズを交換するときは、規定容量以外のヒューズを使用しないでください。

●配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

⑦エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

●ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⑧エンジンルームを点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

●点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑨電球を交換するときは、電球が冷えてから行ってください。

●電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどなどをするおそれがあり危険です。

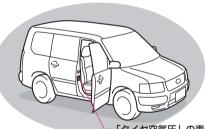
2. タイヤについての注意

タイヤについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①日常点検として、必ずタイヤの点検を行ってください。

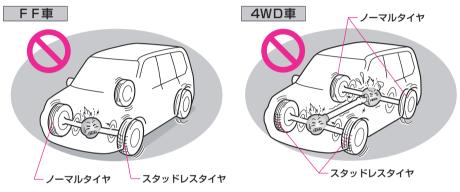
●タイヤの点検は、法律で義務づけられています。
●タイヤは以下の点について点検してください。
- タイヤの空気圧。
- タイヤのき裂・損傷の有無。
- タイヤの溝の深さ。
- タイヤの異常な摩耗。（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度がほかのタイヤと著しく異なるなど。）

タイヤの点検方法は、**「メンテナンスノート」**をお読みください。

②タイヤ空気圧は、必ずタイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整してください。

「タイヤ空気圧」の表

●指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.314で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。
指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。
※ 高速で走行している時に、タイヤが波うつ現象。

③タイヤはすべて必ず指定サイズで、同一種類のタイヤを装着してください。

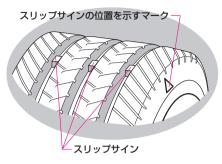
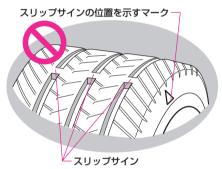
●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
●タイヤを混在使用すると、左右タイヤ（4WD車の場合は前後左右タイヤ）で常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

〈混在使用の例〉

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響をあたえるのでタイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
  ●4輪の空気圧の差が著しいとき。
  ●空気圧が指定値からはずれているとき。
●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.291参照）
●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.330参照）
●指定以外のタイヤおよび4輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして、正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、ＡＢＳが正常に作動しなくなるおそれがあります。

④摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。

●タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※1により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※1 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

※2 例のイラストは説明のためであり、実際とは異なります。

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※2

〈例：スリップサインが出ている状態〉※2

⑤タイヤの側面などに傷やき裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

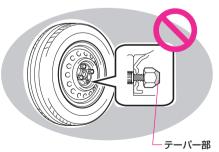
⑥冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

- 指定サイズのタイヤを使用してください。
- 指定空気圧に調整してください。
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

⑦タイヤチェーン装着時は、速度を控えて慎重に運転してください。

- タイヤチェーン装着時は、約30km/h、またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。
- タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。
  また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

⑧タイヤを交換したときは、ホイール取りつけナットが確実に締まっていることを確認してください。

- 確実に締まっていないと、ホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
  締めつけトルク：103N・m｛1050kgf・cm｝
- 必ずナットのテーパー部を内側にして取りつけてください。テーパー部を外側にして取りつけると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑨ディスクホイール取りつけボルト、ナットのネジ部やディスクホイールのボルト穴につぶれやき裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。

●つぶれやき裂などの異常があると、ナットを締めつけても、十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

●段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃により、タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑪歩道の縁石などにタイヤが当たらないように注意してください。

●タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑫走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。

●走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっています。タイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあり危険です。

3. バッテリーについての注意

バッテリーについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①日常点検として必ずバッテリーの液量を点検してください。

●バッテリーの液面が各液槽とも、バッテリー側面に表示されたLOWER LEVEL（下限）以下のまま使用、充電すると、バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。点検方法は**「メンテナンスノート」**を参照し、液量が少ないときは補給してください。

②バッテリーあがりで、ブースターケーブルをつなぐときは、接続順や接続箇所を間違えないように注意してください。（P.351参照）

●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③エンジンがかかっているときや、充電中は、バッテリーに近づかないでください。

●充電中は、バッテリーから有毒で腐食性の高い希硫酸を含んだバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、失明など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着した場合は、すぐに衣服を脱ぎ、液が付着した身体の部分を多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。
●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合は、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受けてください。

④火気をバッテリーに近づけないでください。

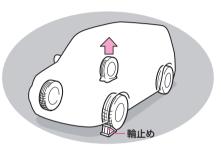
●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑤バッテリーを交換したときは、正しい位置にクランプを取りつけ、ナットを確実に締めつけてください。

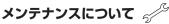
●確実に取りつけたり、締めつけたりしないと、走行中にクランプがはずれてショートするなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

4. ジャッキアップについての注意

ジャッキアップについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。

●車が動きジャッキがはずれ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。なお、輪止めはトヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

②ジャッキアップした車の下には、絶対にもぐらないでください。

●万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●車載工具のジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外は使用しないでください。

③ジャッキアップするときは、次の点に注意しないと、車体が損傷したり、ジャッキがはずれ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●人を乗せたままジャッキアップをしないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置（P.330）にかかっていることを必ず確認してください。
●車体は、タイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
●ジャッキアップした車体をおろすときは、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。

④車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。

●ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。

●室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

1. オーバーヒートについての注意

オーバーヒートについては、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①オーバーヒートし、ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。

●エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも、高温になっている部分がありますので、ボンネットを開けるときは十分注意してください。

②ラジエーターやリザーブタンク（補助タンク）が熱いときはラジエーターキャップ・エア抜きバルブを開けないでください。

●蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●キャップ・バルブを開けるときは、ラジエーターやリザーブタンク（補助タンク）が十分に冷えてから、布きれなどでキャップ・バルブを包み、ゆっくりと開けてください。

2. 万一の事故のときの注意

次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①エンジンをかけずにけん引される場合は、ハンドルやブレーキ操作に十分注意してください。

●エンジンがかかっていないと、パワーステアリングやブレーキ倍力装置が働かないため、操作力が非常に重くなります。けん引される車の運転は、十分注意して行ってください。

②けん引中に、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。

●けん引フックやロープが破損し、それが周囲の人などに当たり、重大な傷害をあたえるおそれがあり危険です。

③けん引中にエンジン スイッチからキーを抜いたり、エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”にしないでください。

●キーが抜けていると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあり危険です。また、“ＬＯＣＫ”だとキーが抜けるおそれがあります。

④発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。また、発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。

●可燃物の近くで使用すると引火するおそれがあり危険です。また、使用中に顔や身体に向けると、炎でやけどするなど、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑤事故後、エンジンを始動する前に燃料がもれていないか確認してください。

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかれば、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままエンジンを始動すると燃料に引火し、重大な事故につながるおそれがあり危険ですので、エンジンを始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①不正改造は絶対にしないでください。

●トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
●車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットの交換。
  異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
- 電装品・無線機などの取りつけ、取りはずし。
  電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

②灰皿を使用したあとは、マッチ・タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。

●開けたまま放置すると、車両火災につながるおそれがあり危険です。また、灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

③カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。また、使用していないときは閉めておいてください。

④ウインドゥガラスなどには吸盤をつけないでください。

●ウインドゥガラスにアクセサリーの吸盤を取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置くと、吸盤や容器がレンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⑤熱線反射ガラス、またはプライバシーガラスなどの色つきガラスに塩化ビニール製の吸盤やシールなどをつけないでください。

●塩化ビニール製品に含まれる成分により、ガラスの変色、色抜けの原因となります。

⑥ラゲージルームには人を絶対に乗せないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑦内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。

●インストルメントパネルがフロントウィンドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

⑧バックドアを閉めるときは、ほかの人の手などを挟まないように注意してください。また、お子さまにはバックドアの操作をさせないでください。

●お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●バックドアは、必ず外から押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがらないでください。手を挟んだり、ダンパーステーが破損してはずれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑨走行前にバックドアを軽くゆさぶり、確実にロックされていることを確認してください。

●バックドアが確実に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●バックドアを開けたまま走行しないでください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものなどに当たり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩ワイヤレスドアロックのリモコンの電池交換時に、取りはずした電池や部品を（とくにお子さまが）飲み込まないようにご注意ください。

●飲み込むと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑪アルミボディは磁石で固定するアクセサリーを取りつけることができません。

●磁石はアルミにつかないため、磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などは取りつけることができません。

! その他の注意

⑫走行中はインパネテーブルを使用しないでください。

●シフトレバー操作のさまたげになったり、テーブル上のものが落下するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑬格納具からタイヤを取りはずすときは、足の上などに落とさないように注意してください。

●足などを挟みけがをするおそれがあり危険です。

⑭車内のスイッチなどに飲み物などをこぼさないよう注意してください。

●インストルメントパネル、コンソールボックス、ドアなどにあるスイッチなどに飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、スイッチに飲み物がかかった場合は、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

⑮エンジンがかかっているとき、またはエンジン停止直後、マフラーに触れないように注意してください。

●エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっています。荷物の積みおろし時などに手や足が触れると、やけどをするおそれがあります。点検などで排気管に触れる場合は、十分に冷めてからにしてください。

⑯シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドゥを開けたまま放置しないでください。

●ドアやウインドゥを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

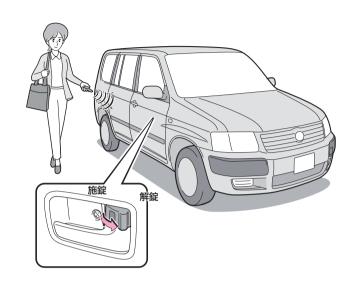
⑰メガネ、ライターやスプレー缶を車内に放置したままにしないでください。

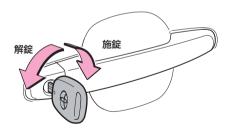
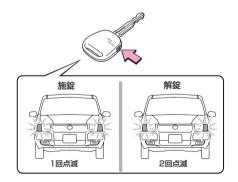
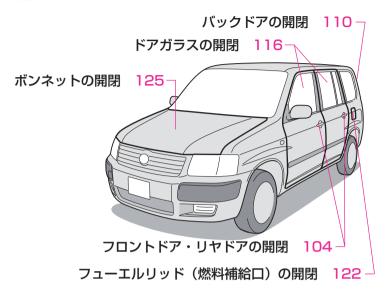
●室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こすおそれがあります。
●室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発するなどして、火災につながるおそれがあり危険です。
●ライターやスプレー缶を収納装備に放置したり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあり危険です。

2

基本操作早わかり

（はじめてこの車にお乗りになるかたへ）

この章では、はじめて車を購入されたかたやトヨタ車にはじめてお乗りになるかたのために、この車の基本的な運転装置および装備品を簡単に説明しています。
詳しい取り扱い説明や注意事項は各章をしっかりお読みください。

ドアの施錠と解錠

キーで

リモコンスイッチで

各部の開閉に関する詳しい紹介は

ドアガラスの開閉

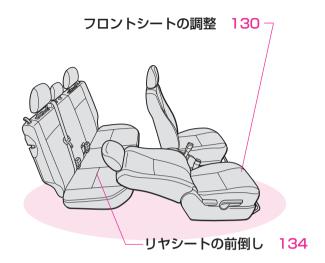
フューエルリッド（燃料補給口）の開け方

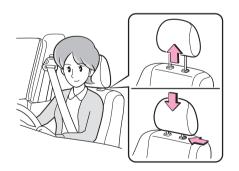
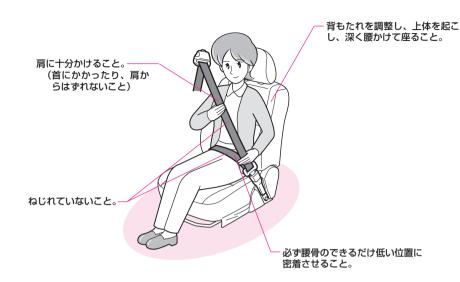
運転席の調整機能（その1）

前後位置

背もたれの角度

シートの上げ下げ

シートに関する詳しい紹介は

運転席の調整機能（その2）

ヘッドレスト

着用のしかた

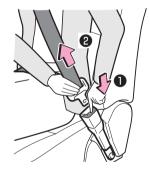
1 ベルトを引き出します。

2 プレートをバックルに差し込みます。

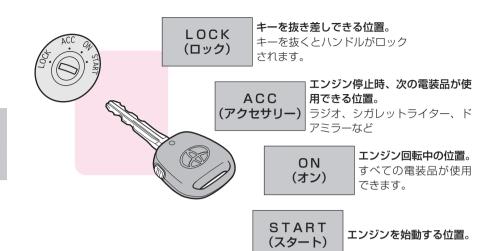
❶“カチッ”という音がするまで差し込みます。

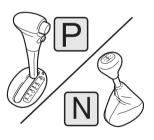
❷アンカーの高さを調整します。

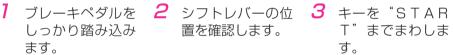
シートベルトに関する詳しい紹介は

はずし方

❶バックルのボタンを押します。
❷ベルトを巻き取らせます。

エンジンのかけ方

1 ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

●パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

2 シフトレバーの位置を確認します。

●オートマチック車では🅟、マニュアル車では🅝に入れます。マニュアル車ではクラッチペダルをいっぱいまで踏み込みます。

3 キーを“ＳＴＡＲＴ”までまわします。

クラッチスタートシステム 268

マニュアル車

サクシードのマニュアル車は、**クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないとエンジンがかかりません。**

キーの抜き方

オートマチック車はシフトレバーをⓅにします。

❶キーを押し込んで
❷ “ＬＯＣＫ” にまわし引き抜きます。

ハンドルロックの解除

❶ハンドルを動かしながら、
❷キーをまわします。

シフトレバーの動かし方（発進時の場合）

オートマチック車

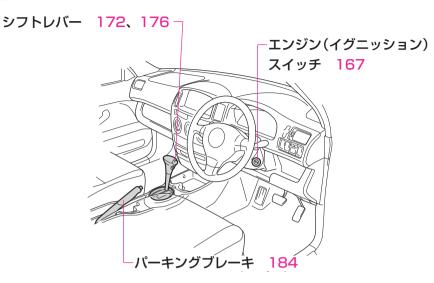
1 ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

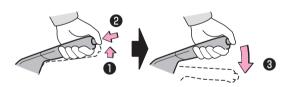
●パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

2 シフトレバーボタンを押してⓅから操作します。

マニュアル車

クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで操作します。

運転装置に関する詳しい紹介は

パーキングブレーキの使い方

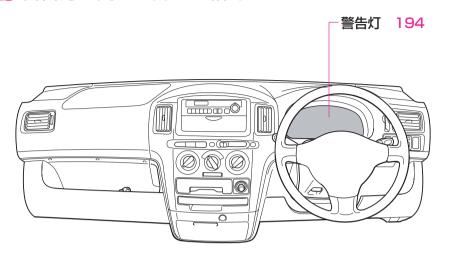
もどし方

ブレーキペダルを踏んで、
❶レバーを引き上げながら
❷ボタンを押し
❸いっぱい下までおろします。

かけ方

レバーをいっぱい引き上げます。

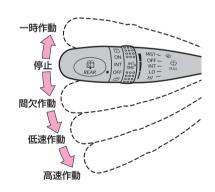
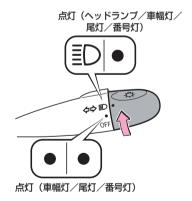
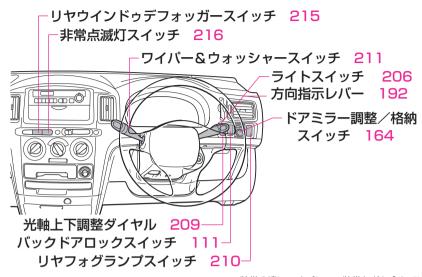
警告灯が点灯、または点滅したままのときは

警告灯	警告理由
半ドア警告灯	いずれかのドアが確実に閉まっていません。
運転席シートベルト非着用警告灯	運転者がシートベルトを着用していません。
ブレーキ警告灯	●パーキングブレーキがかかっています。 ●パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液量の不足です。
燃料残量警告灯	燃料切れが近づいています。 (約8L以下で点滅)
充電警告灯	充電系統の異常です。

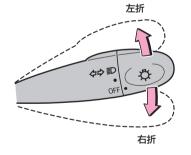
警告灯に関する詳しい紹介は

警告灯が点灯、または点滅したままのときは

警告灯	警告理由
ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯	ＳＲＳエアバッグシステム、またはプリテンショナー付シートベルトシステムの異常です。
ＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯	ＡＢＳ＆ブレーキアシストシステムの異常です。
エンジン警告灯	エンジン電子制御システムなどの異常です。
油圧警告灯	エンジン内のオイルの圧力の異常です。
高水温警告灯（赤色）	オーバーヒートのおそれがあります。

夜間や雨天時などの走行

フロントワイパーの使い方

ランプのつけ方

スイッチに関する詳しい紹介は

※装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

他車への合図

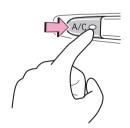
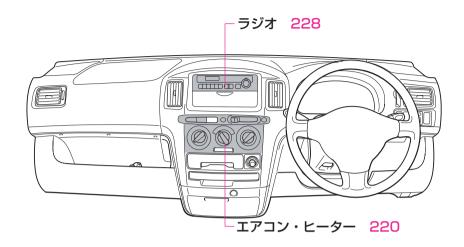
方向指示

非常点滅灯

エアコン・ヒーターの使い方

1 風量を調整します。

2 温度を調整します。

3 エアコン装着車

エアコン（冷房・除湿機能）を作動させたいときは、エアコンスイッチをＯＮにします。

エアコン・ラジオに関する詳しい紹介は

ラジオの使い方

電源の入れ方と音量の調整

電源入、切

音量

ラジオを聞くには

ＡＭ・ＦＭ放送の切り替え

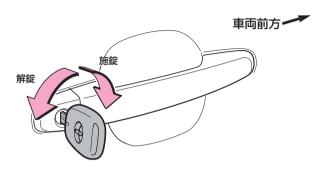
放送局の設定

運転装置の取り扱い

ドア・ドアガラスなどの開閉

フロントドア・リヤドアの開閉

キーでの施錠・解錠のしかた

ワイヤレスドアロック装着車の助手席を除くフロントドア

前にまわすと施錠、うしろにまわすと解錠されます。

ドアロックスイッチ付き車の運転席ドアでは、すべてのドア（バックドアを含む）の施錠・解錠ができます。

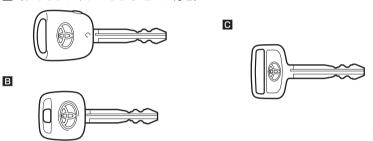
知 識

航空機内へのワイヤレスドアロックのリモコンの持ち込みについて

航空機にリモコンを持ち込む場合は、航空機内でリモコンのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

知 識

キーについて

●キーはドアの施錠・解錠のほか、エンジンの始動・停止などに使用します。
●キーは2枚あります。（キーの組み合わせは、車の仕様により、異なる場合があります。）
ワイヤレスドアロック装着車は、A・C一本ずつ、ワイヤレスドアロック装着車以外は、B・C一本ずつになります。
- ワイヤレスドアロックのリモコンの操作についてはP.120をお読みください。

●キーを作るときは、トヨタ販売店にご相談ください。トヨタ純正品以外のキーを使用すると、キーがスムーズにまわらなくなるおそれがあります。
●万一、キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

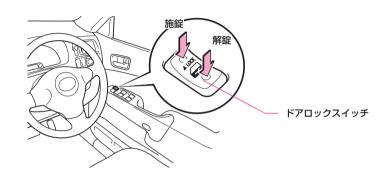
キーナンバープレートについて

お客様以外にキーナンバーがわからないように、キーではなくプレートにキーナンバーを打刻しました。

キーナンバー

●キーナンバープレートは、車両以外の場所に大切に保管してください。
●万一、キーを紛失したときは、トヨタ販売店でキーナンバーからトヨタ純正品のキーを作ることができます。

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた★

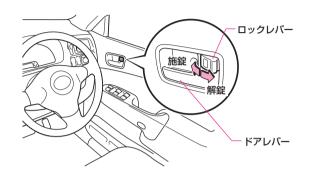
運転席ドア

スイッチの前側を押すと施錠、うしろ側を押すと解錠されます。
●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠・解錠が同時にできます。

知 識

作動条件について

●エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます。
●スイッチを押し続けると、作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押しなおしてください。

ロックレバーでの施錠・解錠のしかた

■車内での施錠・解錠

ロックレバーを前方に押し込むと施錠、後方に引き出すと解錠されます。

■車外からの施錠のしかた

フロントドアはロックレバーを施錠側にして、ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。
リヤドアはロックレバーを施錠側にして、ドアを閉めます。

知 識

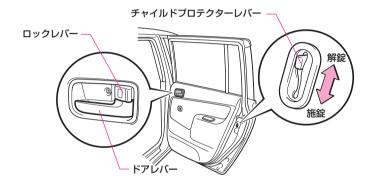
便利機能について

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと、ドアが開きます。

ワイヤレスドアロックのリモコンでの施錠・解錠のしかた★

P.120の**「ワイヤレスドアロックのリモコンの使い方」**をお読みください。

チャイルドプロテクターの使い方

リヤドア

チャイルドプロテクターレバーを施錠側にしてドアを閉めます。
●車内のドアレバーで、リヤドアを開けることができなくなります。

知識

チャイルドプロテクターについて

走行中などに、お子さまが誤ってドアを開けたりしないように、ロックレバーの位置に関係なく、車内のドアレバーの操作では、リヤドアが開かないように施錠できます。

チャイルドプロテクターが働いているときのドアの開け方

ロックレバーを解錠状態にして、車外のドアハンドルを引いて開けます。万一、車内から開けるときは、ドアガラスを開け、ロックレバーを解錠状態にして、車外のドアハンドルを引いて、開けます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

⚠警告　走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

●走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中は、ドアレバーを引かないでください。
　ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
●お子さまにドアの操作をさせないでください。
　●閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
　●走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

便利機能について

キー抜き忘れ防止チャイム

エンジン スイッチが“ＬＯＣＫ”または“ＡＣＣ”のとき、運転席ドアを開けると、キーの抜き忘れを警告するチャイムが“ピーピー、ピーピー”と鳴ります。キーの閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠してください。

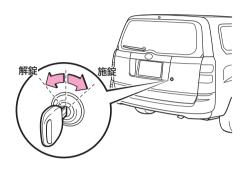
乗車中の施錠・解錠の効果について

乗車中の施錠、解錠についてはそれぞれ次のような効果がありますので、選択してください。

〈乗車中、施錠している場合〉
●同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
●車外からの不意の侵入者を防ぎます。
●シートベルトの着用と併せて、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

〈乗車中、解錠している場合〉
●万一の場合に車外からの救援活動が受けやすくなります。
車から離れるときは、必ずエンジンを停止し、施錠することが法律で義務づけられています。また、車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

バックドアの開閉

キーでの施錠・解錠のしかた

左にまわすと解錠、右にまわすと施錠されます。

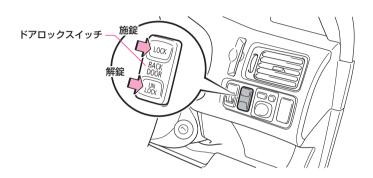
ワイヤレスドアロックのリモコンでの施錠・解錠のしかた★

P.120の**「ワイヤレスドアロックのリモコンの使い方」**をお読みください。

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた★

エンジン スイッチの位置に関係なく、バックドアの施錠・解錠ができます。（P.106参照）

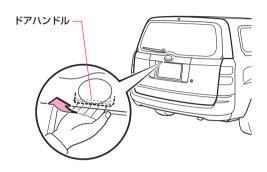
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

バックドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた★

スイッチのＬＯＣＫ側を押すと施錠、ＵＮＬＯＣＫ側を押すと解錠されます。

知 識

作動条件について

●エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます。
●スイッチを押し続けると、作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押しなおしてください。

開閉のしかた

■開け方

ドアハンドルを引いて、バックドアを持ち上げます。

●バックドアを開けるときは、最上部まで持ち上げてください。

●バックドアが自然に降下しないことを確認してください。

■閉め方

1 バックドアをおろします。

2 下端を押さえつけ、ロックします。

⚠警告　走行中はバックドアを閉めてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

●走行中はバックドアを閉じてください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康傷害や死亡につながるおそれがあります。
走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまを乗せているときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

●バックドアの操作にあたっては、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

走行中はバックドアを閉めてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●バックドアにキャリアなどの重いものを取りつけると、開けたあとにドアが落下し、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取りつけは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取りつけられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物がステーのロッド部（伸縮部）に付着しないようにしてください。また、繊維などの付着を防止するため、ロッド部を軍手などで触れないでください。異物が付着すると、ステーが円滑に動かなくなったり、開けたとき保持力が損なわれるおそれがあります。
●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取りつけないでください。バックドアの重量が重くなると、開けたときに、ステーが支えきれなくなるおそれがあります。
●ステーに手をかけて乗りおりしたり、横方向に力をかけたりしないでください。ステーが曲がり、バックドアが開閉できなくなるおそれがあります。

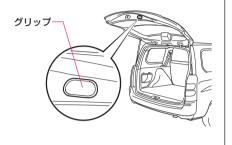
知識

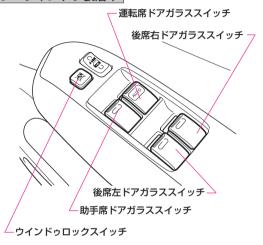
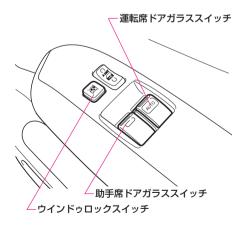
便利機能について

バックドアグリップ

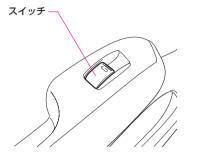
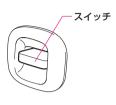
バックドアをおろすときに便利です。

ドアガラスの開閉

パワーウインドゥの使い方★

■運転席スイッチ

前・後席パワーウインドウ装着車

前席パワーウインドウ装着車

運転席スイッチで、パワーウインドゥを装着したすべてのドアガラスの開閉が行えます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

■助手席スイッチ

■後席スイッチ ★

自席のドアガラスの開閉が行えます。

■ドアガラスの開閉のしかた

スイッチを下に押している間は開き、上に引いている間は閉まります。
スイッチから手を離すと、その位置で停止します。

■運転席ドアガラスの自動開閉のしかた

運転席ドアガラス

●全開するときは、スイッチを下に強く押して手を離します。
途中で止めたいときは、スイッチを軽く引き上げます。

●全閉するときは、スイッチを上に強く引き上げて手を離します。
途中で止めたいときは、スイッチを軽く押します。

知 識

作動条件について

エンジン スイッチが“ ON ”のとき使用できます。ただし、助手席・後席スイッチはウインドゥロックスイッチがONになっているときは開閉しません。

安全機能について

挟み込み防止機構

運転席ドアガラス

ドアガラスを閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動で少し開き、止まります。

●環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷物がドアガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

ウインドゥロックスイッチの使い方★

ウインドゥロックスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。スイッチをＯＮにすると、運転席ドアガラス以外のパワーウインドゥは開閉しません。

ウインドゥロックスイッチ	運転席スイッチ	助手席・後席スイッチ
ＯＮ	運転席ドアガラスの開閉ができます。	開閉できません。
ＯＦＦ	すべてのドアガラスの開閉ができます。	開閉できます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

警告 **走行中は窓から手や顔を出さないでください。また、ドアガラスを開閉するときは手・腕・頭・首などを挟まないようにしてください。**

●走行中は窓から手や顔を出さないでください。車外のものなどに当たったり、急ブレーキをかけたときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。
とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにドアガラスの操作をさせないでください。開けるときや閉めるとき手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まれたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構は、スイッチを強く引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構を故意に作動させるため、手などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

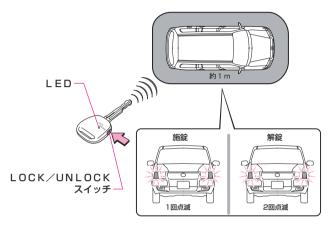
●万一、挟み込み防止機構が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けると、閉めることができます。

運転席スイッチとほかのドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

●運転席スイッチとほかのドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

●ドアガラスの全開・全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

ワイヤレスドアロックのリモコンの使い方★

ドアの施錠・解錠のしかた

ＬＯＣＫ／ＵＮＬＯＣＫスイッチを押すごとに全ドアが施錠・解錠され、作動が完了すると、非常点滅灯が点滅（施錠は1回、解錠は2回）します。

●スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
●スイッチを押すと、ＬＥＤが点灯します。
●スイッチを押して施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

注意　ワイヤレスドアロックリモコンを正常に作動させるために、以下の点にご注意ください。

●ワイヤレスドアロックリモコンは電子部品です。強い衝撃などを与えると故障の原因となりますので、以下の点にご注意ください。
- ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
- 分解しないでください。
- 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- 水にぬらさないでください。

●ワイヤレスドアロックリモコンは、微弱な電波を使用しています。次のような場合は、リモコンと車両間の通信をさまたげ、正常に作動しない場合があります。その場合はキーで操作してください。
- 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備があるとき。
- 無線機、携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき。
- リモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき。
- 複数のリモコンが近くにあるとき。
- リモコンをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき。
- 近くでワイヤレスドアロックのリモコンを使用しているとき。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

知識

航空機内へのリモコンの持ち込みについて

航空機にリモコンを持ち込む場合は、航空機内でリモコンのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

作動条件について

●リモコンは、周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車から約1mまで近づいて操作してください。
●バックドアガラスに次のものを貼りつけると、車両後方からリモコンの操作をした場合、受信器への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動可能距離が短くなるおそれがあります。
　●金属を含有するウインドゥフィルム。
　●その他の金属物。（トヨタ純正品以外のアンテナなど）
●ＬＯＣＫ／ＵＮＬＯＣＫスイッチは、エンジン スイッチにキーが差し込まれているとき、または、いずれかのドアが開いているときは作動しません。
●ＬＯＣＫ／ＵＮＬＯＣＫスイッチを押し続けても、ドアの施錠・解錠は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。
●ＬＯＣＫ／ＵＮＬＯＣＫスイッチを押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは、自動的に施錠されます。

電池交換について

リモコンを操作しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはＬＥＤが暗くなったり、点灯しなくなった場合、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。
電池の交換は市販の精密ドライバーを使用すれば、お客様自身で交換できます。Ｐ.292の**「ワイヤレスドアロックのリモコンの電池交換」**をお読みください。（トヨタ販売店でも交換できます。）

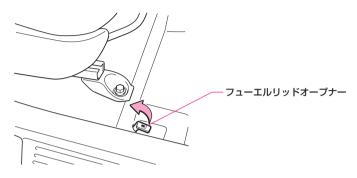
紛失について

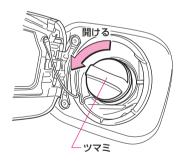
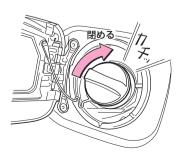
リモコンを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

使用個数について

リモコンは、同じ車両で最大4個まで使用することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

フューエルリッドの開閉

運転席右下にあるフューエルリッドオープナー（⛽）を引くと開きます。
閉めるときは、フューエルリッドを手で“カチッ”と音がするところまで閉めます。

フューエルキャップの開閉

■開けるときは
キャップのツマミを持ち、左にまわして開けます。

■閉めるときは
キャップのツマミを持ち、“カチッ”と音がするまで右にまわして閉めます。

警告　燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

●燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、燃料に引火して、やけどなどの重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- エンジンは必ず停止してください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコなど火気を近づけないでください。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるときなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。
- フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミを持ち、ゆっくりと開けてください。
  気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
  フューエルキャップを少しゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。
  その音が止まってからゆっくり開けてください。
- 給油中、再び車内のシートに戻ったり、帯電している人や物に触れないでください（再帯電のおそれがあります）。
- 給油口には静電気除去を行った方以外の人を近づけないでください。
- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右にまわし、確実に閉まっていることを確認してください。
- 車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
- その他、スタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

●給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

指定以外の燃料を使用しないでください。

- 指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
- 指定以外の燃料（粗悪ガソリン・灯油・高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使用すると、エンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。
- 給油中に燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。

知 識

フューエルリッドの位置について

フューエルリッド（燃料補給口）は車両助手席側後方にあります。

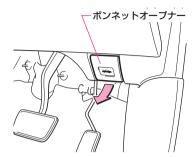
燃料タンク容量について

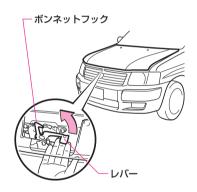
燃料タンク容量は約50Ｌです。

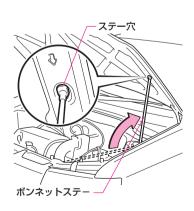
エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率３%以下、含酸素化合物の含酸素率1.3%以下）も使用することができます。

ボンネットの開閉

開け方

1 ボンネットオープナーを引きます。

運転席インストルメントパネル右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。

2 ボンネットフックをはずします。

ボンネットのすき間に手をいれ、レバーを押し上げ、ボンネットフックをはずして、ボンネットを持ち上げます。

3 ボンネットステーを差し込みます。

ボンネットステーをステー穴に差し込んでボンネットを支えます。

閉め方

1 ボンネットステーをはずします。
ボンネットステーをはずし固定します。

2 ボンネットを閉めます。
ボンネットを約20cm～25cmの位置から静かに落として閉めます。

3 ロックされていることを確認します。
ボンネットの前端を上下にゆすり、確実にロックされていることを確認します。

警告

走行前にはボンネットがロックされていることを確認してください。ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。
●ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

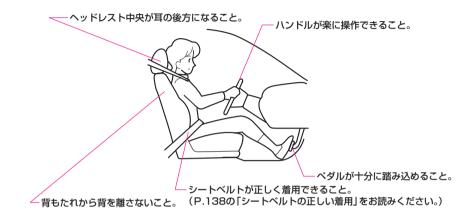
注意

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

シートの調整

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢が取れるように、次の事項に注意してシートを調整します。

（P.138の「シートベルトの正しい着用」をお読みください。）

警告　走行中は運転席シートの調整をしないでください。

●走行中は運転席シートの調整をしないでください。調整中にシートが突然動くなどして、運転を誤り、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●フロントシートの下にものを置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因となります。
●背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

シートを調整するときは同乗者や荷物などまわりの状況に注意してください。

●シートを調整するときは、同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。
●室内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなどは、シートの下に手を入れると、シートレール・シートフレーム（シートの土台部分）などに当たり、けがをするおそれがありますので、十分に注意してください。

フロントシートの調整

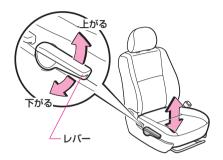
前後位置調整のしかた

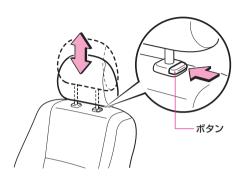
レバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。

リクライニング調整のしかた

レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。

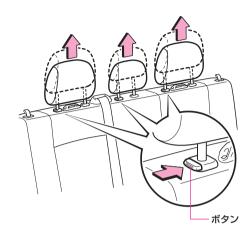
上下調整のしかた

運転席

シートを上げるときは上に、シート下げるときは下に、レバーを何度か動かして調整します。

ヘッドレストの上下位置調整のしかた

●上げるときは、そのまま引き上げます。
●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

警告 ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
●ヘッドレストはフロントシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。前後のヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

リヤヘッドレストの脱着★

●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。
●取りつけるときは、そのまま差し込みます。

警告　ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

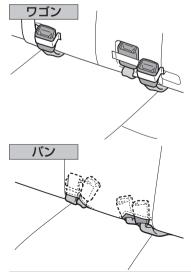
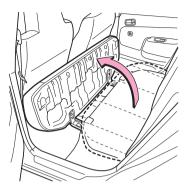
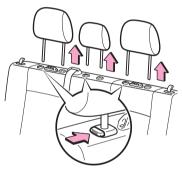
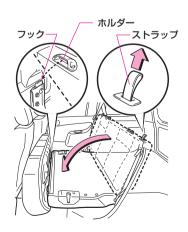
●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●ヘッドレストはリヤシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。前後のヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

リヤシートの前倒し

前倒しするときは

1 **車を安全な場所に駐車し、しっかりとパーキングブレーキをかけます。**

2 **シートベルトのプレートをベルトハンガーに格納します。**
背もたれを倒すときに巻き込まれないように、両側シートベルトのプレートをベルトハンガーに格納します。

3 **フロントシートを前方に移動します。**
クッションを起こすときに当たらないように、フロントシートを前方に移動させます（P.130参照）。

4 **リヤシートベルトを格納します。**
リヤシートベルトをリヤシートの格納バンドまたは、ポケットに格納します。

5 クッションを引き起こします。
クッションと背もたれの間に手を入れて、クッションを引き起こします。

6 ヘッドレスト付き車はヘッドレストをはずします（P.133参照）。

7 背もたれを倒します。
シート両端のストラップのいずれか片方を引いてロックをはずし、背もたれを前方に倒します。
●背もたれのホルダーがクッションのフックに確実に固定されていることを確認してください。

もどすときは

1 シートベルトのプレートがベルトハンガーに格納されていることを確認します（P.134参照）。

2 背もたれを起こして固定します。
背もたれのホルダーをクッションのフックからはずし、背もたれを起こして固定します。
●確実に固定されていることを確認してください。

3 クッションをもどします。

4 ヘッドレスト付き車はヘッドレストを取りつけます。

5 シートベルトのプレートをベルトハンガーからはずします。

⚠警告　走行中はシートの操作をしないでください。

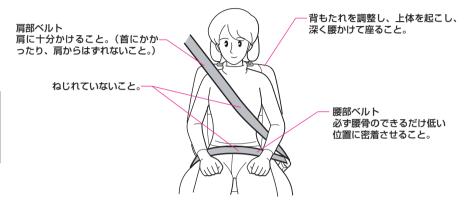
- 走行中はリヤシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人をのせて走行しないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- リヤシートを前倒ししたときは、お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 背もたれをもとにもどしたときは、軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと、急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、ラゲージルーム内のものが飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シートベルトが背もたれやクッションに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な力を発揮できず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

背もたれを倒すときは、指などを挟まないように注意してください。

- 背もたれを倒すときは、フックとホルダーの間に指などを挟み、けがをするおそれがありますので、注意してください。
- リヤシートを倒して荷物を積むときは、必ずシートクッションを起こし、背もたれを倒してから積んでください。背もたれだけを倒して荷物を積むと、シートを破損するおそれがあります。

シートベルトの着用

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

⚠警告　必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

●車に乗る場合は、全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、ふくらむＳＲＳエアバッグに飛ばされたり、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。正しい姿勢については、P.128をお読みください。
- 3点式シートベルトの肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。必ず肩に十分かかるように着用してください。
- シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
- シートベルトはねじれがないように着用してください。ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができません。
- シートベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
- シートベルトを着用する場合は、洗たくばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。
- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに身体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近づいて運転しないでください。

警告 **必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。**

●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。シートベルトが傷ついた場合、十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。
（ただし、医師に注意事項をご確認ください。）

- 妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
  また、肩部ベルトは確実に肩に通しお腹のふくらみをさけて胸部にかかるように着用してください。
- ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●疾患のあるかたも必ずシートベルトを正しく着用してください
（ただし、医師に注意事項をご確認ください。）

⚠警告　必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- シートベルトが首やあごに当たったり、腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート・ジュニアシートを使用してください。使用しない場合、衝突したときなどに強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、ひとり座りのできない小さなお子さまは、ベビーシートを使用してください。なお、子供専用シートについてはトヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトのバックルには異物が入らないようにしてください。異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷のついたシートベルトは、使用しないですぐに新品と交換してください。そのまま使用すると、衝突したときなどに正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどをしないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。シートベルトの取りつけ・取りはずし・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

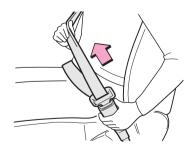
3点式シートベルトの着用のしかた

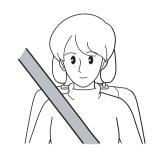
シートベルトの脱着のしかた

1 シートベルトを引き出します。

プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確認します。
シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてから、ベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

2 プレートをバックルに差し込みます。

プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。
運転席はシートベルト非着用警告灯（P.204）が消灯したことを確認してください。
車両が発進するとシートベルトインフォメーション表示灯（P.193）が点滅しますが、シートベルトインフォメーション表示灯はシートベルトの着用にかかわらず約10秒間点滅します。

3 腰部ベルトを密着させせます。

腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させせます。

4 肩部ベルトをかけます。

肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。
このとき、ベルトが首に当たったり、肩からはずれないようにしてください。

5 フロントシートでは、ベルトの高さを調整します。

アジャスタブルシートベルトアンカーでベルトの高さを調整します。
調整するときは、ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにしてください。

- 上げるときはアンカー部を持ち、そのまま動かします。
- 下げるときは、ロックボタンを押したままアンカー部を動かし、最適な位置に調整します。

“カチッ”と音がし、確実に固定されていることを確認します。

6 はずすときは、バックルのボタンを押します。

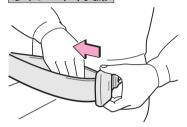
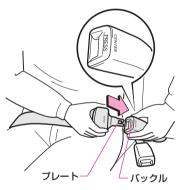
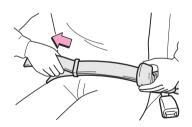
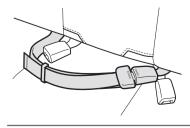
⚠警告

シートベルトアンカーを調整するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

2点式シートベルトの着用のしかた★

シートベルトの脱着のしかた

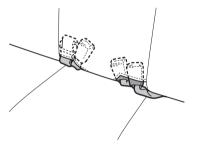
リヤシート中央席

1 **ベルトの長さを調整します。**
プレートを図のようにしてベルトを引き、必要な長さより少し長めにします。

2 **ベルトを結合します。**
ベルトにねじれがないようにプレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。

3 **ベルトを密着させます。**
ベルトを引いて必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。

4 **はずすときは、バックルのボタンを押してはずします。**
はずしたベルトは、バックルにはめておいてください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

リヤシートベルトをシートの中に押し込んだ状態で使用しないでください。押し込んだままの状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知 識

便利機能について

シートベルトを使用しないときは、次のように格納しておくことができます。

子供専用シート

子供専用シートについて

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取りつけ方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表につて

■質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0+　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取りつけ器具の記号になります。

ベビーシート

ECE R44 基準のグループ0、0^+に相当

チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ0^+、Ⅰに相当

ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取りつけ）

質量グループ	フロントシート	
	助手席	
	エアバッグ有	エアバッグ無
0 （10kgまで）	×	U
0+ （13kgまで）	×	U
I （9～18kg）	前向き UF	U
	後ろ向き ×	
II （15～25kg）	UF	U
III （22～36kg）	UF	U

質量グループ	リヤシート	
	外側席	中央席
0 （10kgまで）	U	×
0+ （13kgまで）	U	×
Ⅰ （9～18kg）	U	×
Ⅱ （15～25kg）	U	×
Ⅲ （22～36kg）	U	×

●表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。
子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書も御確認ください。

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（ISOFIX対応トップテザーアンカーでの取りつけ）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISOFIX位置
			リヤシート外側席（ワゴンのみ）
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kgまで）	E	ISO/R1	IL※
0+（13kgまで）	E	ISO/R1	IL※
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I（9～18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
II（15～25kg）		（1）	×
III（22～36kg）		（1）	×

●表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（AからG）のない子供専用シートの各シート位置でのISOFIX対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISOFIX子供専用シートに適しています。

IL：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY」に適しています。

×：ISOFIX子供専用シートを取り付けることはできません。

※：フロントシート背もたれを最も起こす。
フロントシートを中間位置（前から8段目の固定位置）より前方に設定する。
なお、本調整により正しい運転姿勢を確保できない場合は、助手席後方の座席に搭載してください。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。
子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書も御確認ください。

ISOFIX子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX子供専用シート	カテゴリー
0（10kgまで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0^{+}（13kgまで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談下さい。

警告　子供専用シートを使用しない場合もシートに適正にしっかりと取りつけた状態にしてください

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取りつけた状態にしてしてください。ゆるめた状態で置くことは避けてください。

●子供専用シートの取りははずしが必要な場合は、車両から取りはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

知識

ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されているISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44に適合している子供専用シートの取りつけ専用です。それ以外のものを使用することはできません。

子供専用シートの選択、使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●体が十分に大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。

シートベルトで取りつけるタイプの子供専用シートの選択について

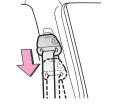
P.206の「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」を参照し、子供専用シートの取りつけ可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

助手席に子供専用シートを取りつけるときは

やむを得ず助手席に子供専用シートを取りつける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取りつけてください。

●背もたれを直立状態にする。

●シートをいちばんうしろに下げる。

●シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる。

キャリコットについて

キャリコットは横向きに取りつけることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シートの製造業者または販売業者にお尋ねください。

知識

ECE R44適合のISOFIX対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（P.208参照）を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から該当する「質量グループ」を確認します。

（例1）：体重が12kgの場合、質量グループは「0+」になります。

（例2）：体重が15kgの場合、質量グループは「Ｉ」になります。

2 サイズ等級を選択します。

手順 **1** で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例1）：質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

（例2）：質量グループが「Ｉ」の場合、「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両ISOFIX位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、ISOFIX子供専用シートのリスト」（P.209参照）で指定されている製品を使用してください。

3 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認します。

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※ 表示されている位置・記号などは商品により異なります。

①ISOFIX対応子供専用シートであることを示す表示

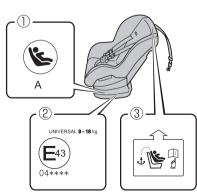
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります。）

手順 **2** で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

②汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSALは汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

③トップテザー（P155参照）を示すマーク

商品の取りつけ装置の位置により、意匠は異なります。

ISOFIX対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き幼児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

チャイルドシートの固定

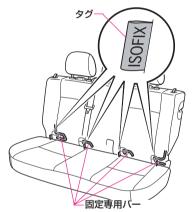
ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーでの固定

リヤシート左右席

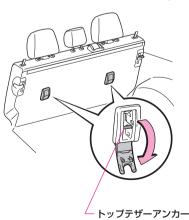
ＩＳＯ※ＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーには、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカー対応のチャイルドシート・ベビーシートのみ取りつけることができます。お子さまに最適な子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

※ International Organization for Standardizationの略で「国際標準化機構」の意味。

取りつけ位置について

■ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バーの取りつけ位置

シートクッションと背もたれの間にあります。

●固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートについています。

■トップテザーアンカーの取りつけ位置

リヤシートうしろ側にあります。

取りつけるときは

1 **ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーの位置を確認します。（前ページ参照）**

2 **子供専用シート（チャイルドシート、ベビーシート）をリヤシートに取りつけます。**

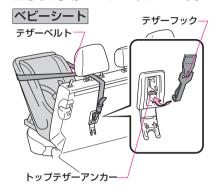
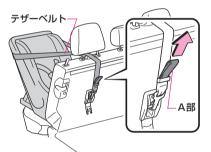
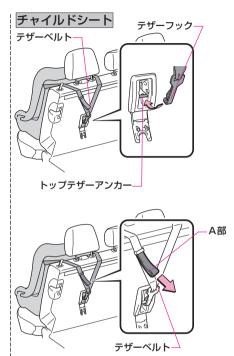
適合する子供専用シートの取りつけ金具を、固定専用バーに取りつけます。次にテザーベルトをトップテザーアンカーに取りつけます。

＊取りつけ方法および取りはずし方は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

●シートの背もたれおよびシートクッションと子供専用シートとの間にすき間ができないように、シートの背もたれの角度を調整してから取りつけてください。

●テザーベルトがねじれないようにベビーシートではヘッドレストの間に通し、チャイルドシートではヘッドレストの両脇を通し、テザーフックを車両側トップテザーアンカーに掛けます。

●テザーベルトがピンと張るまでＡ部を強く引っ張って、子供専用シートを固定します。

■子供専用シートの取りつけ例

※ イラストは説明のためのものであり、実際の子供専用シートの形状とは異なります。

3 **確実に固定されていることを確認します。**

取りつけた子供専用シートを軽くゆさぶり、確実に取りつけられていることを確認します。

⚠ 警告　子供専用シートが固定されていることを必ず確認してください。

●子供専用シートを取りつけるときは、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むと、子供専用シートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●子供専用シートを取りつけるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力を掛けてください。テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ヘッドレストを上げた状態で子供専用シートを取りつけるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上にかけると、子供専用シートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

子供専用シートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

シートベルトでの固定

取りつけるときは

チャイルドシートにシートベルトを取りつけ、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込みます。
その際ベルトがねじれていないことを確認します。

●チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。
- P.44の「子供専用シートについての注意」もあわせてお読みください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定します。

●ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

取りつけたあとはチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

※ イラストは説明のためのものであり、実際の子供専用シートの形状とは異なります。

子供専用シートの取りつけは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、正しく取りつけてください。

●正しく取りつけられていないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。お子さまがシートベルトで遊んで万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●子供専用シートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

道路運送車両の保安基準に適合するＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー対応のトヨタ純正子供専用シートは、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。
（ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーについては、Ｐ.155を参照してください。）

ハンドル・ミラーの調整

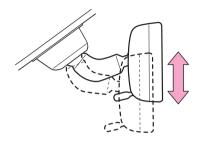
ハンドルの調整

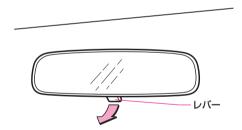
レバーを押し下げ、ハンドルを上下に動かし適切な位置にして、レバーを引き上げると固定されます。

⚠ 警告	走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

●走行中はハンドル位置の調整をしないでください。調整中に運転を誤り、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

インナーミラーの調整

上下位置調整のしかた

ミラー本体を持って、上下方向に調整します。

防眩切り替えのしかた

通常はミラー下側のレバーを前方に押した状態で使用します。
後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引きます。

走行中は、インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ミラーを調整するときは、開いたサンバイザーに当たらないような位置に調整してください。

ドアミラーの調整

鏡面角度調整のしかた

電動式

1 **調整する側のメインスイッチを押します。**
R…右側ドアミラー
L…左側ドアミラー

2 **角度を調整します。**
位置調整スイッチでミラーの角度を調整します。

3 **メインスイッチを中立にします。**
調整したあとは、メインスイッチを中立の位置にもどします。

手動式

ドアミラー全体を手で調整します。
調整したあとは、運転席に座り後方確認が十分にできるか確認してください。

格納のしかた

電動式

	スイッチの状態	ミラーの状態
ＯＮ （格納）		
ＯＦＦ （復帰）		

格納スイッチを押すごとに、ＯＮ（格納）とＯＦＦ（復帰）に切り替わります。エンジン スイッチが“ ＬＯＣＫ ”のときは、手で格納・復帰させることもできます。

手動式

ドアミラーを手で後方に倒して格納します。
走行前には、運転席から後方確認が十分にできる位置まで確実にもどしてください。

警告 **走行中は、ドアミラーの調整をしないでください。**

●走行中は、ドアミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ドアミラーを倒したまま走行しないでください。ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 ドアミラーが動いているときは手を触れたりしないでください。手を挟んでけがをしたり、ドアミラーの故障などの原因となるおそれがあります。

 知 識

作動条件について

●エンジン スイッチが“ＡＣＣ”または“ＯＮ”のとき使用できます。
●ドアミラー格納作動中に、エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”にすると、格納作動が停止します。
●次の場合は、ドアミラーを手で格納・復帰させても、ミラーは格納スイッチの状態にもどります。
- エンジン スイッチが“ＡＣＣ”または“ＯＮ”のとき。
- 手動で操作したあとに、エンジン スイッチを“ＡＣＣ”または“ＯＮ”にしたとき。

●格納スイッチがＯＦＦ（復帰）の状態で、手でドアミラーを前方に倒したときは、エンジン スイッチを“ＡＣＣ”または“ＯＮ”にしても、ミラーは復帰しません。一度格納スイッチをＯＮ（格納）にしてから、再度格納スイッチをＯＦＦにして復帰させてください。

エンジンのかけ方

エンジン（イグニッション）スイッチの使い方

エンジン停止時、次の電装品が使用できる位置。
ラジオ、シガレットライター、ドアミラーなど

エンジン回転中の位置。
すべての電装品が使用できます。

キーを抜き差しできる位置。
キーを抜くと、ハンドルがロックされます。

エンジンを始動する位置。

PUSH
LOCK ACC ON START

“LOCK”から“ACC”にまわすとき

ハンドルロックがかかっていてキーがまわしにくいときは、ハンドルを軽く左右にまわしながらキーをまわします。

“ACC”から“LOCK”にまわすとき

キーを押しながらまわします。

オートマチック車

シフトレバーをⓅにしてから、キーを押しながらまわします。

注意

エンジン停止時は、エンジン スイッチを“ON”または“ACC”のまま長時間放置すると、バッテリーあがりの原因となります。

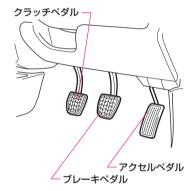
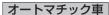
エンジン始動の手順

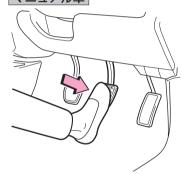
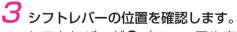
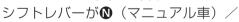
オートマチック車

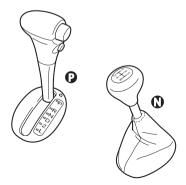
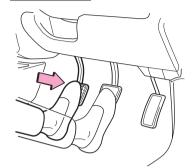
マニュアル車

1 ペダルの位置を確認します。

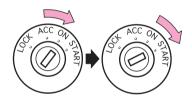
正しい運転姿勢（P.128）が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

マニュアル車

2 ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

3 **シフトレバーの位置を確認します。**

シフトレバーがⓃ（マニュアル車）／Ⓟ（オートマチック車）にあることを確認します。

●オートマチック車はⓃでも始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

マニュアル車

4 マニュアル車はクラッチペダルを踏みます。

クラッチペダルをしっかり踏みます。

●クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンがかからないようになっています。

5 エンジンを始動します。

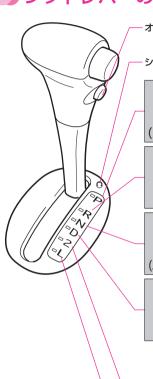
エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にし、アクセルペダルを踏まずにエンジン スイッチを“ＳＴＡＲＴ”にまわします。

警告 車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

- 車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。
- 走行中はエンジンを停止しないでください。エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

シフトレバーの使い方

オートマチック車の使い方

シフトレバーの働き

オーバードライブ（O／D）スイッチ（P.174参照）

シフトロック解除ボタン（P.175参照）

P
（パーキング）

駐車およびエンジン始動
駐車のときは、必ずこの位置にしてください。（Ⓟでのみエンジン スイッチからキーが抜けます。）

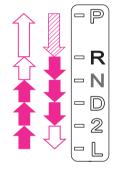
後退
ギヤが後退に固定されます。
ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。

動力が伝わらない状態
Ⓝでもエンジンは始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

通常走行（前進）
スピードに応じて、ギヤが1速から4速まで自動的にかわります。
- ●オーバードライブがＯＮのときは、1速から4速まで
- ●オーバードライブがＯＦＦのときは、1速から3速まで

下り坂走行（前進）
エンジンブレーキが必要な場合に使用します。

急な下り坂（前進）
強力なエンジンブレーキが必要な場合に使用します。

シフトレバーの取り扱い

■シフトレバーの操作

ⒹとⓅの間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車が完全に止まっている状態で行ってください。

ボタンを押して

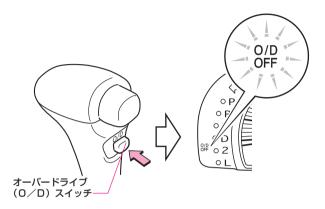
の矢印は、ボタンを**押して**操作します。

の矢印は、**ブレーキペダルを踏んだまま**、ボタンを**押して**操作します。

ボタンを押さずに

の矢印は、ボタンを**押さずに**操作します。

の操作はレバーボタンを押さずに操作してください。いつもレバーボタンを押して操作していると意に反してⓅ、ⓇまたはⓁに入れてしまい、思わぬ事故の原因となり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■オーバードライブ（O／D）スイッチの操作

スイッチを押すごとにＯＦＦとＯＮに切り替わります。
●ＯＦＦのとき、オーバードライブＯＦＦ表示灯（P.192参照）が点灯します。
●エンジン始動時にはオーバードライブＯＮの状態になっています。

知 識

オーバードライブ（O／D）について

オーバードライブＯＦＦ表示灯が消灯しているとき（オーバードライブＯＮ）
通常走行に適します。
シフトレバーがⒹで走行中、4速（オーバードライブ）ギヤにまで入り、燃費性能と静粛性を高めます。

オーバードライブＯＦＦ表示灯が点灯しているとき（オーバードライブＯＦＦ）
4速（オーバードライブ）ギヤに入らなくなり、次のような効果があります。
●軽いエンジンブレーキが得られます。
●上り坂では変速回数の少ないなめらかな走行ができます。

作動条件について

●エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。
●エンジン始動時には、オーバードライブＯＮの状態になっています。

安全機能について

シフトロックシステム

オートマチック車のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをⓅからレバー操作できません。
- エンジン スイッチが“ ＡＣＣ ”または“ ＬＯＣＫ ”のときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- シフトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏むと、操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み込んで、操作してください。

●Ⓟ以外ではエンジン スイッチからキーは抜けません。
- エンジン スイッチからキーを抜くときは、Ⓟにしてください。（Ⓟ以外ではキーを“ ＡＣＣ ”から“ ＬＯＣＫ ”にまわせません。）

●Ⓡに入れると、ブザーが鳴ります。
- ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。
- 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。（車外の人に対する警告音ではありません。）

シフトロック解除ボタンの使い方

万一、Ⓟからレバー操作できないときに使用します。

●ブレーキペダルを踏んだ状態で、エンジン スイッチを“ ＡＣＣ ”にして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバーを操作してください。

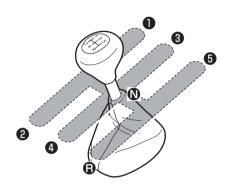
●シフトロックシステムなどの故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

各シフト位置での速度限界

エンジンを過回転させないために、各シフト位置での速度が下表の数値をこえないようにしてください。

単位：km/h［参考値］

シフト位置＼エンジン型式	1NZ－FE	
	ＦＦ	4WD
L	65	60
2	115	110
D（O／D OFF）	180	170

シフトレバーの取り扱い

■シフトレバーをⓇに入れるときは

誤操作を防ぐため、❺からⓇへは直接入れることができません。いったんⓃにしてからⓇに入れます。

■駐車するときは

パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを平地や下り坂ではⓇ、上り坂では❶に入れます。
また、寒冷時に駐車するときは、P.278の**「駐車するときは」**をあわせてお読みください。

車両が動いているときはシフトレバーをⓇに入れないでください。

- 車両が動いているときはシフトレバーをⓇに入れないでください。車が完全に停止してから操作しないとトランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。パーキングブレーキをかけていないと、車両が動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

各シフト位置での速度限界

エンジンを過回転させないために、各シフト位置での速度が下表の数値をこえないようにしてください。

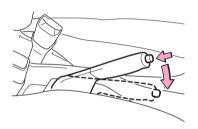
単位：km/h［参考値］

エンジン型式 / シフト位置	1NZ－FE	
	FF	4WD
1速	50	45
2速	90	80
3速	130	120
4速	170	160

オートマチック車の運転のしかた

発進のしかた

通常発進のしかた

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま、シフトレバーをⒹに入れます。

2 パーキングブレーキを解除します。
P.184参照。

3 ブレーキペダルを徐々にゆるめてから、右足でアクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキがしっかりかかっていることを確認してから、シフトレバーを❹に入れます。

2 アクセルペダルをゆっくり踏みます。

3 車が動き出す感触を確認してから、パーキングブレーキを解除し、発進します。

⚠警告　ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

- 発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだまま、シフトレバーを操作してください。とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
- 運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- アクセルペダルを踏み込んだままでのシフトレバー操作は絶対に行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

走行のしかた

通常の走行

シフトレバーを🅓に入れたまま走行します。
●アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速します。

急加速するには

アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。キックダウンし、急加速します。

坂道で走行するときは

■上り坂

アクセルペダルを踏み込んでいくと、キックダウンし、急にエンジン回転が上がることがあります。あらかじめシフトレバーを❷にしておくと、エンジン回転数の変化を抑えることができます。

■下り坂

フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。シフトレバーが🅓のままでスピードが出すぎるときは、坂道に応じて❷または🅛にしてエンジンブレーキを併用します。
●オーバードライブをＯＦＦにすることによっても軽いエンジンブレーキが得られます。

警告 **走行中にはシフトレバーを🅝にしないでください。**

- 走行中にはシフトレバーを🅝にしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 前進で走行中は、シフトレバーを🅡に入れないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。
- ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 坂道などでは、シフトレバーを🅓（または❷🅛）に入れたまま惰性で後退したり、🅡に入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

注意 シフトレバーを🅝にしたままで走行すると、トランスミッションの故障の原因となるおそれがあります。

停車・駐車のしかた

停車のしかた

1 **車を止めます。シフトレバーは**Ⓓ**に入れたまま、右足でブレーキペダルをしっかり踏みます。**
エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリープ現象が強くなりますので、車が動き出さないようにとくに注意してください。

2 **必要に応じて、パーキングブレーキをかけます。**
上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退するおそれがあります。
右足でブレーキペダルをしっかり踏み、しっかりパーキングブレーキをかけてください。

3 **長時間停車する場合は、シフトレバーを**Ⓟ**（または**Ⓝ**）に入れます。**

駐車のしかた

1 **車を完全に止めます。**

2 **パーキングブレーキをかけます。**
右足でブレーキペダルをしっかり踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけます。

3 **シフトレバーをⓅに入れます。**
車が動き出さないためにも、必ずⓅにしてください。

4 **エンジンを停止します。**
車を離れるときは、必ずエンジンを停止して、ドアを施錠してください。

警告　走行中は、シフトレバーをⓅに入れないでください。

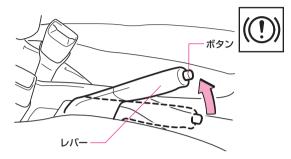
●走行中はシフトレバーをⓅに入れないでください。オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●停車中は空ぶかしをしないでください。シフトレバーがⓅ・Ⓝ以外に入っていると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

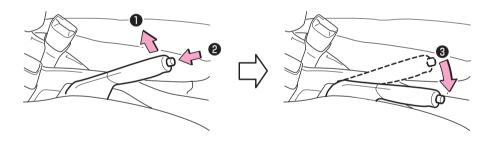
注意　車から離れるときは、必ずエンジンを停止してドアを施錠してください。

●エンジンをかけたままにしておくと、万一、シフトレバーがⓅ以外にあるときに、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。
●アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でシフトレバーをⒹに入れたままアクセルをふかしながら止まらないでください。オートマチックトランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

パーキングブレーキの使い方

パーキングブレーキの使い方

パーキングブレーキをかけるには

ボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引きます。
●ブレーキ警告灯が点灯します。

パーキングブレーキを解除するには

❶レバーを少し引き上げながら
❷ボタンを押さえて、
❸完全に下までもどします。

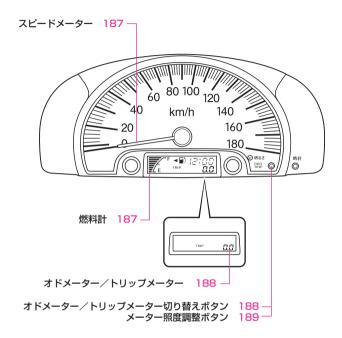
●ブレーキ警告灯が消灯します。

	パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

メーター・表示灯・警告灯の見方

メーター

運転装置の取り扱い

燃料計

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき、燃料残量を示します。
●燃料タンク容量は約50Ｌです。
●エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき、燃料残量が約8Ｌ以下になると、一番下の残量表示と燃料残量警告灯が点滅します。（P.203参照）
点滅したときは、すみやかに燃料を補給してください。

燃料計について

●給油量が少ないと、表示がかわるまでに時間がかかることがあります。
●エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。
●燃料計にある◀印はフューエルリッド（燃料給油口）が助手席側車両後方にあることを示しています。
●エンジン スイッチを“ ＡＣＣ ”または“ ＬＯＣＫ ”にしても、約10分間は表示します。

スピードメーター

車両の走行速度を示します。

オドメーター／トリップメーター

エンジン スイッチが“ＯＮ”のとき、次の表示を示します。

■オドメーター

走行した総距離をkmの単位で示します。

■トリップメーター

区間距離をkmの単位で示します。

知識

オドメーター/トリップメーターについて

エンジン スイッチを“ＡＣＣ”または“ＬＯＣＫ”にしても、約10分間は表示します。

オドメーター／トリップメーター切り替えボタン（トリップメーターリセットボタン）

■表示の切り替え方

切り替えボタンを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

※ランプ点灯時

■トリップメーターを0（ゼロ）にもどすときは

トリップメーターを表示させてから、切り替えボタンを表示が0になるまで押し続けます。

バッテリーとの接続が断たれたときは、トリップメーターは0になります。

メーター照度調整ボタン

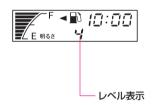
■メーター照度調整表示に切り替えるには

エンジン スイッチとライトスイッチが“ ＯＮ ”のとき、調整ボタンを押すと、トリップメーター表示のあとに照度調整表示に切り替わります。（前ページ参照）

■照度調整のしかた

メーター照度調整表示中、調整ボタンを約1秒以上押し続けると、メーター照明の明るさをかえることができます。

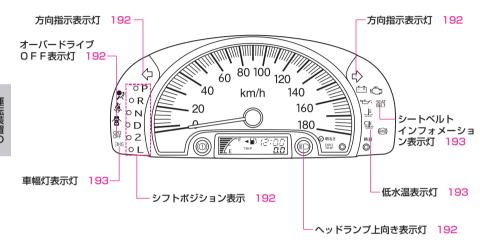
●お好みの明るさになったら、ボタンから手を離します。

●6段階で明るさのレベルを調整できます。

知 識

照度調整表示について

●次のような場合は、自動的に照度調整表示からオドメーター表示に切り替わります。
- ●照度調整表示に切り替えてから、約10秒以上、ボタンを操作しなかったとき。
- ●ライトスイッチをＯＦＦにしたとき。

●エンジン スイッチを“ ＡＣＣ ”または“ ＬＯＣＫ ”にしても、約10分間は調整できます。

表示灯

図ではすべてのグレードにおける表示灯を掲載しています。実際の車に設定される表示灯はグレード等により異なります。

〈表示灯一覧表〉

表示灯	表示灯名
	方向指示表示灯
	ヘッドランプ上向き表示灯
O/D OFF	オーバードライブＯＦＦ表示灯
	低水温表示灯（緑色）
	車幅灯表示灯
SEAT BELT	シートベルトインフォメーション表示灯

シフトポジション表示

オートマチック車

選択されているシフト位置を表示します。

方向指示表示灯

方向指示灯、非常点滅灯を作動させると点滅します。
（P.192、216参照）

知 識

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプを上向きにすると点灯します。（P.191参照）

オーバードライブＯＦＦ表示灯

オートマチック車

オーバードライブスイッチをＯＦＦにすると点灯します。
（P.174参照）

低水温表示灯（緑色）

エンジン スイッチが“ ON ”のとき、エンジン冷却水の水温が低いと点灯します。

暖機を十分続けていても、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーの異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

車幅灯表示灯

車幅灯、尾灯を点灯させると点灯します。（P.206参照）

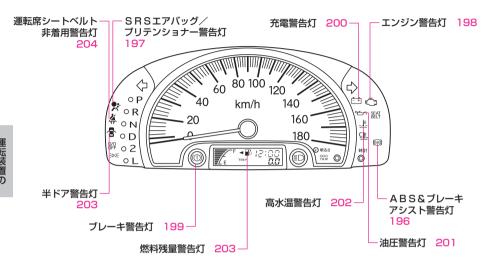
SEAT BELT

シートベルトインフォメーション表示灯

エンジン スイッチを“ ON ”にすると、約10秒間点滅して運転者に同乗者のシートベルト着用をうながします。

表示灯について

- 停車中でエンジン スイッチが“ ON ”のとき、いずれかのドアを開閉すると点滅します。
- シートベルトを着用していてもエンジン スイッチを“ ON ”にするたび、点滅します。また、点滅中にシートベルトを着用しても、約10秒経過するまで消灯しません。

警告灯

図ではすべてのグレードにおける警告灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯はグレード等により異なります。

〈警告灯一覧表〉

警告灯	警告灯名	警告灯	警告灯名
	ＡＢＳ＆ ブレーキアシスト警告灯 （ＡＢＳ＆ブレーキアシスト装着車）		高水温警告灯（赤色）
	ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯		燃料残量警告灯
	エンジン警告灯		半ドア警告灯
	ブレーキ警告灯		運転席シートベルト非着用警告灯
	充電警告灯		油圧警告灯

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯

ＡＢＳ＆ブレーキアシスト装着車

ＡＢＳ＆ブレーキアシストシステム（P.260）に異常があると点灯します。

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳ＆ブレーキアシストは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳが作動しないため急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時には、タイヤがロックすることがあります。

ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

●警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。この場合、ＡＢＳに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にしても点灯しないとき。
- エンジン スイッチが“ ＯＮ ”で点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき。

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

警告灯について

エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯・点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯

ＳＲＳエアバッグシステム（P.248）、またはプリテンショナー付シートベルトシステム（P.258）に異常があると、点灯・点滅します。

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグ、またはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

- エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にしても点灯しないとき、または点灯・点滅したままのとき。
- 走行中に点灯・点滅したとき。

警告灯について

エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯

エンジン回転中、エンジン電子制御システム、またはオートマチックトランスミッション電子制御システムに異常があると点灯します。

エンジン回転中に点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯について

エンジン スイッチを “ ON ” にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

ブレーキ警告灯

エンジン スイッチが“ＯＮ”で次のときに点灯します。
●パーキングブレーキをかけたままのとき。
●ブレーキ液が不足しているとき。

警告　**警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。**

●エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき。
この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。
●警告灯がＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのとき。
この場合、ＡＢＳに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。
●エンジン スイッチが“ＯＮ”で、パーキングブレーキをかけても点灯しないとき。
●パーキングブレーキが解除された状態で、エンジン スイッチを“ＯＮ”にしても点灯しないとき。
なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

充電警告灯

エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

エンジン回転中に点灯したときは、Vリブドベルトの切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。

警告灯について

エンジン スイッチを “ ON ” にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

運転装置の取り扱い

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に異常があると点灯します。
この警告灯はオイル量を示すものではありません。オイル量の点検はオイルレベルゲージにより行ってください。
（点検方法は、P.315をお読みください）

エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、エンジンオイル量を点検してください。点灯したまま走行し続けるとエンジンを損傷するおそれがあります。エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

警告灯について

エンジン スイッチを“ ON ”にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。

高水温警告灯（赤色）

エンジン回転中、エンジン冷却水の水温が異常に高くなったとき点滅します。

警告灯が点滅したときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、**「オーバーヒートしたときは」**（P.354）にしたがって処置してください。

警告灯について

エンジン スイッチを“ ON ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

運転装置の取り扱い

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。

燃料残量警告灯

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき、残量が約８Ｌ以下になると点滅します。点滅したときは、すみやかに燃料を補給してください。

●坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点滅することがあります。

半ドア警告灯

いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときに点灯します。

警告

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉っていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。

運転席シートベルト非着用警告灯

エンジン スイッチが “ ON ” のとき、運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

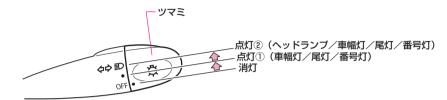
■運転席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音がかわります。）

●シートベルトを装着すると消音します。

スイッチの使い方

ライトスイッチ／方向指示レバーの使い方

ランプの点灯・消灯

ツマミを点灯①・点灯②にまわすと、点灯します。
●点灯させるとメーター内の車幅灯表示灯（P.193参照）が点灯します。

完全に充電されたバッテリーでも、エンジンを停止した状態で長時間ランプ類を点灯すると、バッテリーあがりの原因となります。

知 識

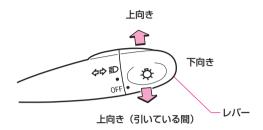
作動条件について

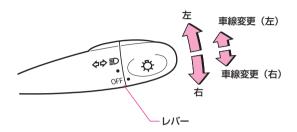
エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます。

便利機能について

ランプ消し忘れ警告ブザー

ツマミが点灯①・点灯②のままエンジン スイッチからキーを抜いて運転席ドアを開くと、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが“ピー”と鳴ります。

前方を遠くまで照らしたいときは

●ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前方に押します。
●ヘッドランプが消灯していても、レバーを手前に引いている間、ヘッドランプが上向きになります。
●ヘッドランプが上向きのときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯（P.192参照）が点灯します。

方向指示灯の点灯・消灯

●レバーを上、または下へ操作すると、左、または右側の方向指示灯が点滅し、メーター内にある方向指示表示灯も点滅します。
レバーはハンドルをもどすと自動的にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。
●車線変更のときには、レバーを軽く上、または下へ押さえている間、それぞれの方向指示灯および方向指示表示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

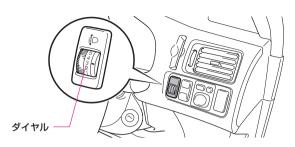
知識

作動条件について

エンジン スイッチが“ ON ”のとき使用できます。

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドランプの光軸上下調整

ダイヤルをまわすと、ヘッドランプの光軸（光の照らす方向）を下向きに調整できます。

●通常は0（ゼロ）の位置（光軸が一番上向きの位置）で使用します。

光軸上下調整について

●荷物や人をのせることにより車両前面が上を向いて、ヘッドランプの照らす範囲がいつもと違う（いつもより上向きになっている）ときに、ダイヤルをまわしてヘッドランプの光軸を下向きにします。荷物や人をおろしたあとには、必ずダイヤルを0（ゼロ）の位置にもどしておいてください。

●乗員やラゲージルームの積載状況に応じて下記の表を目安にダイヤル位置を調整してください。

ダイヤル位置の目安

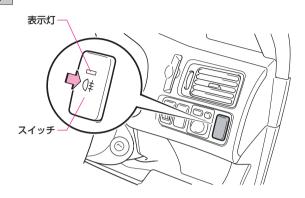
乗員やラゲージルームの積載状況	ダイヤル位置			
	バン		ワゴン	
	2WD	4WD	2WD	4WD
運転席のみ乗車時	0	0	0	0
運転席と助手席に乗車時	0	0	1	1
5名乗車時	―	―	2	2
5名乗車時でかつラゲージルーム満載時	3	3	3	2
運転席のみ乗車時でかつラゲージルーム満載時（リヤシート前倒し時）	5	4	5	4

●車検などで光軸調整をするときは、ダイヤルを0（ゼロ）の位置（一番上向きの位置）にしてから行ってください。

作動条件について

ヘッドランプ（ロービーム）が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプスイッチの使い方★

寒冷地仕様車

●スイッチを押すと表示灯が橙色に点灯し、もう一度押すと消灯します。
●点灯中は表示灯が点灯します。

知 識

リヤフォグランプについて

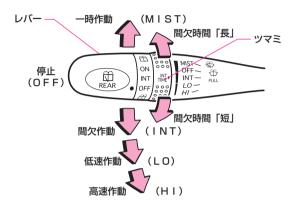
雨や霧などで視界が悪いときに後続車に、自分の車の存在を知らせるために使用します。
●視界が悪いとき以外に使用すると、後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

作動条件について

●ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。
●リヤフォグランプが点灯しているときに、ヘッドランプを消灯させても、車幅灯が点灯していれば、リヤフォグランプは消灯しません。
●リヤフォグランプが点灯しているときに、ライトスイッチをＯＦＦにして車幅灯を消灯させると、リヤフォグランプも消灯します。
●リヤフォグランプが消灯したあとに、再度点灯させるためには、リヤフォグランプスイッチの操作が必要です。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

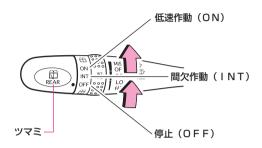
ワイパー&ウォッシャースイッチの使い方

フロントワイパーの動かし方

レバーを操作すると、上図のように作動します。

●間欠作動（ＩＮＴ）のときツマミをまわすと、間欠時間を約3～10秒の間で調整できます。

●一時作動（ＭＩＳＴ）は、レバーをＯＦＦから押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すとＯＦＦにもどります。

運転装置の取り扱い

リヤワイパーの動かし方

ツマミをまわすと、上図のように作動します。

注意　ワイパーゴムがガラスに張りついていないことを確認してください。

- ●ウインドゥガラスが凍結しているときや長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張りついていないことを確認してください。ガラスに張りついたまま作動させると、ワイパーゴムを損傷するおそれがあります。
- ●積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めて、ワイパースイッチをＯＦＦ・エンジン スイッチを“ ＡＣＣ ”または“ ＬＯＣＫ ”にし、ワイパーが作動できるように、積雪などの障害物を取り除いてください。

知 識

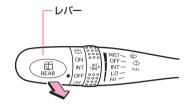
作動条件について

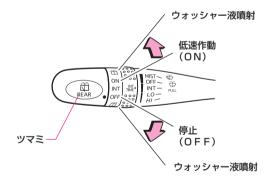
エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

保護機能について

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。約10分ほどすると、ブレーカーが復帰して、通常どおり使用できるようになります。

ウォッシャー液の噴射のしかた

■フロント

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射されます。
●ウォッシャー液噴射後、ワイパーが数回作動します。

■リヤ

●低速作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、ツマミをＯＮから上の側にまわします。
●ツマミをＯＦＦから下の側にまわすと、ウォッシャー液が噴射されます。

寒冷時はウォッシャー液を使用しないでください。視界不良を起こすおそれがあります。

- 寒冷時は、ウインドゥガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がウインドゥガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。
- 必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。ガラスが乾いているときにワイパーを作動させると、ガラスを傷つけるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。また、ノズルがつまって噴射状態が悪い場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

知 識

作動条件について

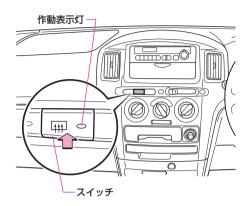
エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

ガラスについた油膜について

油膜があると、雨の夜は対向車のランプなどが乱反射します。ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにしてください。

ウォッシャー液の補給について

ウォッシャー液の補給については、P.316をお読みください。

リヤウインドゥデフォッガー（曇り取り）スイッチの使い方

スイッチを押すと作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●作動中は作動表示灯が点灯します。

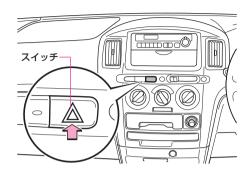
連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

リヤウインドゥデフォッガーについて

リヤウインドゥガラスを熱線で暖めて曇りを取ります。

作動条件について

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

非常点滅灯スイッチの使い方

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、点滅中にもう一度押すと消灯します。
●点滅中はメーター内にある方向指示表示灯も点滅します。

バッテリーがあがるのを防ぐため、エンジンが停止しているときに長時間使用しないでください。

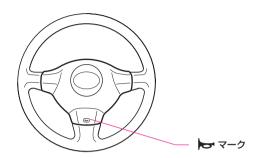
知 識

非常点滅灯について

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

作動条件について

エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます。

ホーンの使い方

ハンドルの マーク周辺部を押すとホーン（警音器）が鳴ります。

知 識

作動条件について

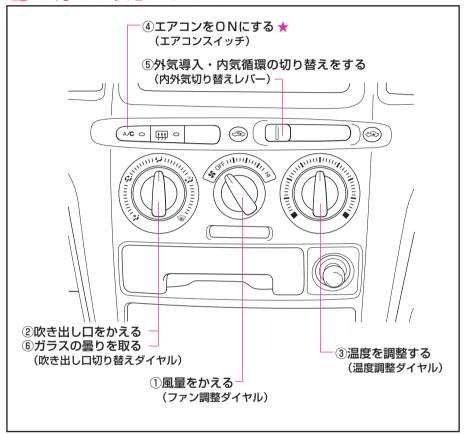
エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます。

4 室内装備の取り扱い

エアコン・ヒーターの取り扱い

エアコン・ヒーターの使い方

お好みの状態にするには

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

①風量をかえる

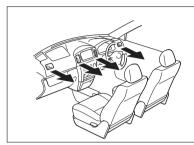
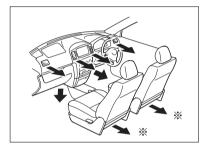
ダイヤルをＯＦＦから右へまわすと空調の電源が入ります。
4段階で風量が調整できます。
風量を
●強くするときは右側
●弱くするときは左側
にダイヤルをまわします。
ＯＦＦにすると電源が切れファンが止まり、空調は停止します。

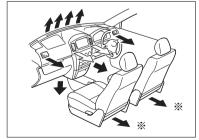
②吹き出し口をかえる

使用目的に合った吹き出し口を選択できます。

ダイヤルをまわして、吹き出し口の位置をかえることができます。

<吹き出し口選択の目安>

上半身に送風するときは

上半身と足元に送風するときは

足元に送風するときは

足元への送風と窓ガラスの曇りを取るときは

※ 寒冷地仕様車のみ送風されます。

⇨ 最大冷房時のみ送風されます。

③温度を調整する

室内の温度調整ができます。

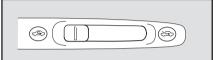
温度を
●上げるときは右側
●下げるときは左側
にダイヤルをまわします。

④エアコンをＯＮにする

冷房、除湿機能をＯＮにすることができます。

エアコン装着車

スイッチを押すごとに、エアコン（冷房、除湿機能）がＯＮとＯＦＦに切り替わります。
●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。
●外気温が0℃近くまで下がるとエアコンはＯＮになりません。

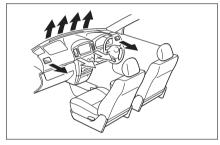
⑤外気導入・内気循環の切り替えをする

内外気切り替えレバーを
●左側にすると内気循環
●右側にすると外気導入
になります。

レバー位置	モード
	外気導入 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
	内気循環 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れてれているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときにお使いください。

⑥ガラスの曇りを取る

吹き出し口を窓ガラスに固定します。

ガラスの曇りを取るときは、ダイヤルを にし、内外気切り替えレバーを （外気導入側）にします。

<吹き出し口>

⇨ 最大冷房時のみ送風されます。

湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にしないでください。
外気とウインドゥガラスの温度差でウインドゥガラス外側表面が曇り、視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

バッテリーあがりを防ぐため、エンジン停止中に作動させないでください。

知識

内外気切り替えについて

- ●トンネル内や渋滞などで汚れた外気を車内に入れたくないときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときは、内外気切り替えレバーを （内気循環側）にすると効果的です。
- ●長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

車内の温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

より早くガラスの曇りを取るには

⑥**ガラスの曇りを取る**の操作と併せて、次の操作を行います。

- ●エアコン装着車は、エアコンを作動させる。（エアコンスイッチを押す。）
- ●風量を増す。（ファン調整ダイヤルを操作する。）
- ●設定温度を上げる。（温度調整ダイヤルを操作する。）

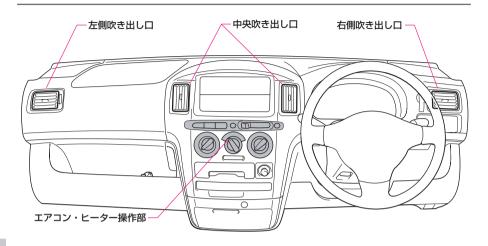
内外気2層制御について

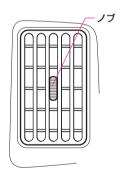
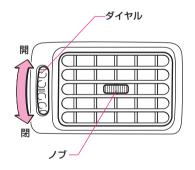
寒冷地仕様車

最大暖房および吹き出し口が または のとき、内外気切り替えレバーを （外気導入側）にすると、室内上層が外気導入、室内下層が内気循環になり、内気循環時と同じくらいの暖房性能を維持しながら、ガラスの曇りを防止します。

エアコンの臭いについて

- ●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- ●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

吹き出し口の調整

風向きのかえ方・吹き出し口の開閉のしかた

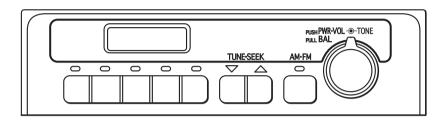
中央吹き出し口

左右吹き出し口 下図は右側

●吹き出し口のノブを動かすと、風向きの調整ができます。
●左右吹き出し口は、ダイヤルをまわして吹き出し口を開閉することができます。

 知 識

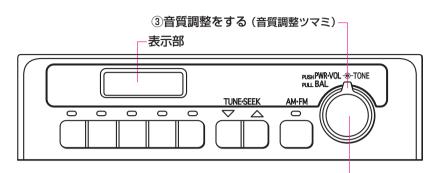
吹き出し口について

冷房時まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり、異常ではありません。

ラジオの取り扱い

メーカーオプションのDVDナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「DVDナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

ＡＭ／ＦＭラジオ ★

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

電源、音量・音質の調整

基本操作

①電源を入れる・切る

パワースイッチを押すごとに、電源が入と切に切り替わります。

②音量調整をする

音量調整ツマミを右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと小さくなります。

作動条件について

エンジン スイッチが“ＡＣＣ”または“ＯＮ”のとき使用できます。

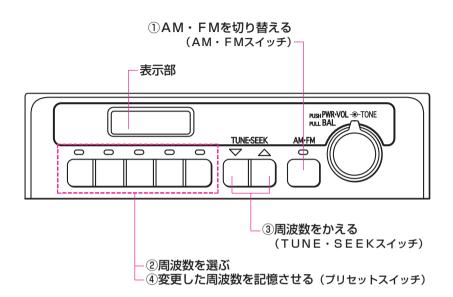
応用操作

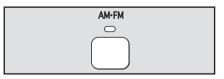
③音質調整をする

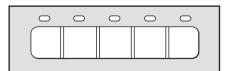
ツマミを右へまわすと高音が強調され、左へまわすと低音が強調されます。

④左右の音量バランス調整をする

ツマミを引いたまま右へまわすと、右側音量が大きくなり、左へまわすと、左側音量が大きくなります。

ラジオの使い方

基本操作

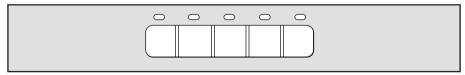
①AM・FMを切り替える

スイッチを押すごとに、ＡＭ放送・ＦＭ放送に切り替わります。
●表示部にモードが表示されます。

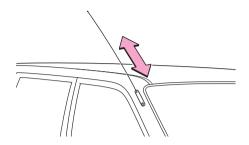
②周波数を選ぶ

5つあるプリセットスイッチの1つを押します。記憶されている放送局が選択されます。
放送局の記憶のさせ方については、P.216をお読みください。

応用操作

③周波数をかえる

周波数はＴＵＮＥ・ＳＥＥＫスイッチを押すと､切り替えることができます。
- 高い方へ選択するときはスイッチの△側、低い方へ選択するときはスイッチの▽側を押します。
- スイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、自動で受信可能な周波数が選択されます。
  - 受信感度が良く、現在表示部に表示されている周波数に一番近い周波数が自動で選択されます。
  - 途中で止めるときは、もう一度スイッチを押します。
  - 地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で選択できないことがあります。

④変更した周波数を記憶させる

記憶させるプリセットスイッチの1つを“ピッ”と音がするまで押し続けると、聞いていた周波数を記憶させることができます。
- ＡＭ・ＦＭ各5局まで周波数を記憶させることができます。
  1つのスイッチにＡＭ・ＦＭ各1局ずつ周波数を記憶させることができます。
- バッテリー交換やヒューズ交換などでラジオとバッテリーとの接続が断たれたときには、記憶されていた周波数はすべて消去されます。

アンテナ

ラジオを使用するときは、いっぱいに引き出します。

アンテナの取り扱いにはご注意ください。

次のようなときには、アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを格納してください。

●自動洗車機にかけるとき。
●車庫の天井などにアンテナが当たるとき。
●カーカバーをかけるとき。

使用上の留意点

安全運転をさまたげないように適度な音量でお聞きください。
ラジオを聞いているときに車内、または車の近くでデジタル式携帯電話を使用した場合、ラジオのスピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがありますが、故障ではありません。

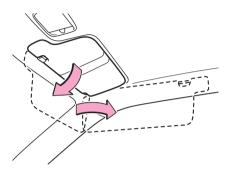
注意	走行中のラジオ操作は、安全運転に支障がないように十分注意して行ってください。

ラジオについて

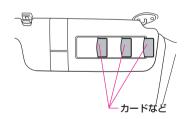
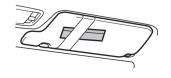
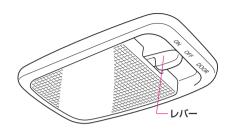
ラジオの受信は、アンテナの位置が刻々とかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合もあります。

室内装備品の使い方

サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。
側面にまわして使用することもできます。

知 識

便利機能について

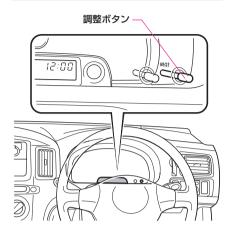
カードホルダー（運転席）
カードなどを収納することができます。サンバイザーの裏側にあります。

チケットホルダー（運転席）
チケットなどを収納することができます。

室内灯（フロント・リヤ）

●レバーがＯＮのときは常に点灯します。
●レバーがＯＦＦのときは常に消灯します。
●レバーがＤＯＯＲのとき、いずれかのドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

知 識

作動条件について

エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます。

時計

"時""分"を調整するときは

1 調整ボタンを押し続けます。

約2秒間押し続けると"分"調整モード("分"表示が点滅)になります。

2 "分"を調整します。

調整ボタンを押すごとに"分"が進み、押し続けると早送りされます。

3 調整ボタンから手を離し、約5秒間待ちます。

"時"調整モード("時"表示が点滅)に切り替わります。

4 "時"を調整します。

調整ボタンを押すごとに"時"が進み、押し続けると早送りされます。

5 調整ボタンから手を離し、約5秒間待ちます。

時計が作動を開始します。

時報に合わせるときは

時報と同時に調整ボタンを押すと、時報に合わせることができます。

- 0～29分は切り下げられます。
- 30～59分は切り上げられます。

(例) 1:00～1:29の場合は1:00に、1:30～1:59の場合は2:00になります。

知 識

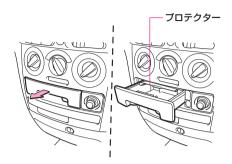
作動条件について

エンジン スイッチに関係なく時刻が表示されます。

- 調整ボタンはエンジン スイッチが"ON"のとき使用できます。

時計の表示について

秒表示はありませんが**「時報に合わせるときは」**の操作後、0秒から作動を開始します。

灰皿

使用するときは、手前に引いて開けます。

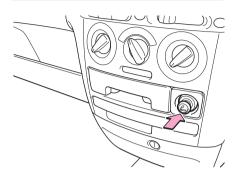
●取りはずすときは、プロテクターを下へ押したまま取りはずします。

警告

出火を防ぐため、次のことをお守りください。

●マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。

●灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

シガレットライター

使用するときは、シガレットライターを押し込んで手を離します。
もとの位置にもどったら使用できます。

注意

●シガレットライターの金属部分に触れないでください。やけどをするおそれがあります。

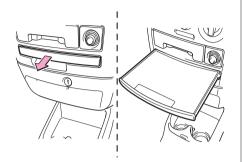
●シガレットライターの故障や周辺部の焼損を防ぐため、次のことをお守りください。

- シガレットライターを押さえたままにしないでください。
- 他車のシガレットライターを差し込まないでください。
- ソケットからトヨタ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。トヨタ純正品以外の電源を取り出した場合、シガレットライターを使用すると、赤熱したシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

知 識

作動条件について

エンジン スイッチが“ＡＣＣ”または“ＯＮ”のとき使用できます。

インパネテーブル

使用するときは、手前に引き出します。

⚠ 警告

走行中は絶対に使用しないでください。シフトレバー操作のさまたげになったり、テーブル上のものが落下するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

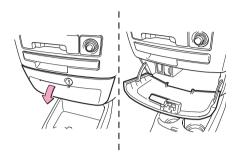
⚠ 注意

インパネテーブルの使用最大重量は10kgです。それ以上重いものはのせないでください。テーブルが破損するおそれがあります。

知 識

インパネテーブルについて

弁当の置き場所としてや、車内での伝票書き、小型パソコンを使用するときなどに利用できます。

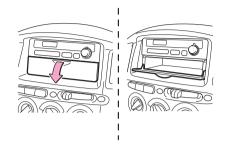
センターボックス

フタを手前に引いて開けます。

●使用しないときは、閉めておいてください。

知 識

施錠について

キーを差し込み、右にまわしたまま抜きます。

1DINポケット

ツマミを手前に引いて開けます。

●使用しないときは、閉めておいてください。

デッキサイドポケット

ラゲージルーム左側にあります。

●取りはずすときは、レバーを押し込みながらはずします。

●取りつけるときは、そのままはめ込みます。

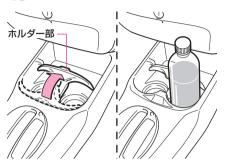
注意

●デッキサイドポケット裏側のスペースには、換気用の弁が取りつけられています。次の理由から荷物などを収納しないでください。

- 荷物が弁をふさぎ、換気性能が悪化し、ドアの閉まりが悪くなるおそれがあります。
- 荷物で弁が押し開かれたままの状態になり、車内に排気ガスや水が進入するおそれがあります。

●デッキサイドポケットを取りはずして使用したあとは、必ず取りつけておいてください。

フロアコンソール

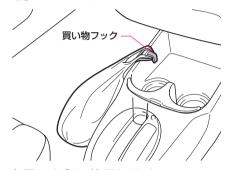
カップホルダー

使用するときは、ホルダー部を前方に開きます。

●使用しないときはホルダー部を閉めて、小物入れとしても利用できます。

警告

●カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。

●急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときは収納しておいてください。

買い物フック

上図のように使用します。

注意

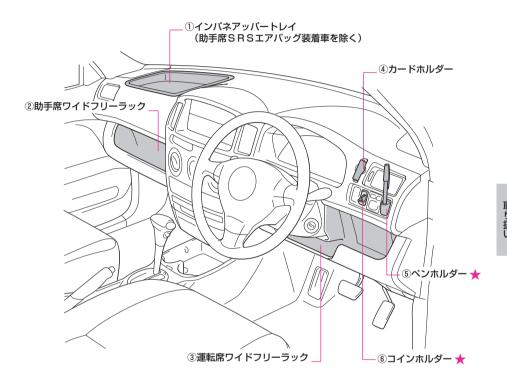
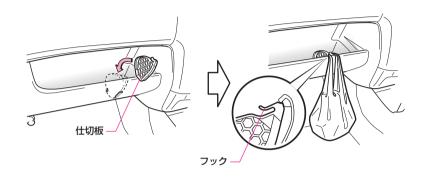
とくに重たい物や、大きな物をフックに吊り下げないでください。フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

最大荷重 …………………………… 約1kg

A4バインダー立て

A4サイズのバインダーや書類などを収納できます。

収納スペース

①から⑥のスペースに、小物などを収納できます。

■助手席ワイドフリーラックについて

助手席ワイドフリーラックには、取りはずし可能なフック付き仕切板がついています。
上図のように使用してください。

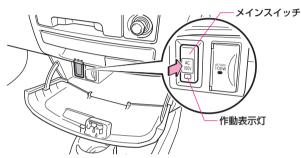
カードホルダーにカードを入れたままにしないでください。

- ●カードホルダーにカードを入れたままにしておくと、カードが変型したり、盗難にあうおそれがありますので、カードを車内に放置しないでください。
- ●助手席ワイドフリーラックのフックには、とくに重たい物や、大きな物を吊り下げないでください。フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

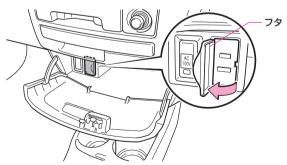
最大荷重 ………………………………… 約1kg

アクセサリーコンセント（AC100V）★

センターボックスの中にあります。

アクセサリーコンセントの使い方

1 メインスイッチを押します。

●作動表示灯が点灯し、アクセサリーコンセントが使用可能な状態になります。
●スイッチを押すごとに電源がＯＮとＯＦＦに切り替わります。
●アクセサリーコンセントを使用しないときは、メインスイッチをＯＦＦにして、作動表示灯が消灯していることを確認してください。

2 アクセサリーコンセントのフタを開けます。

3 電気製品のプラグを差し込みます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

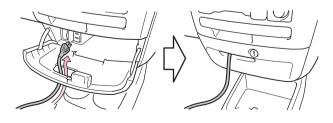
アクセサリーコンセントを使用しないときはフタを閉めておいてください。

●アクセサリーコンセントを使用しないときは、コンセントから電気製品のプラグをはずし、フタを閉めておいてください。異物がコンセントに入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。
●エンジンを停止した状態で長時間使用するとバッテリーがあがることがあります。また、エンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。
●使用する電気製品のプラグ形状よっては、充分にコンセントに差し込めない場合があります。無理に差し込むとセンターボックスを損傷したり、プラグが脱落するおそれがあります。充分に差し込めない場合は、延長コードを使用してください。

作動条件について

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

アクセサリーコンセントについて

●車内で電気製品を使用することができます。
●センターボックスの取っ手部からコードを出すことで、フタを閉めたまま使用することができます。

知識

アクセサリーコンセントについて

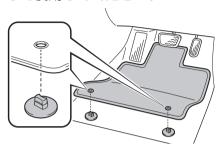
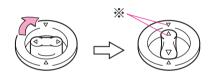
●AC100Ｖで最大消費電力100W以下の電気製品を使用してください。
- 規定容量をこえる電気製品を使用すると、車両ヒューズが切れることがあります。

●消費電力が100W以下であっても次のような機器は正常に作動しない場合があります。
- 起動時の消費電力が大きい機器（ブラウン管式テレビ、コンプレッサー式冷蔵庫、電気ポンプ、電気工具など）。
- 電源の周波数の切り替え（50／60Hz）のある機器（時計、オーディオなど）。
- 精密なデータを計測する機器（医療機器、計測器など）。
- その他（マイコン制御式電気毛布、タッチセンサー付ランプなど）。

●使用する電気製品によってはラジオやテレビに雑音がはいることがあります。

●アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正確な電圧は測定できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取りつけ穴をはめ込みます。

2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定します。

※△マークを必ず合わせてください。
固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。
- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、以下のことを確認してください。
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行ってください。
- エンジン停止およびシフトレバーがⓅ（オートマチック車）またはⓃ（マニュアル車）の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

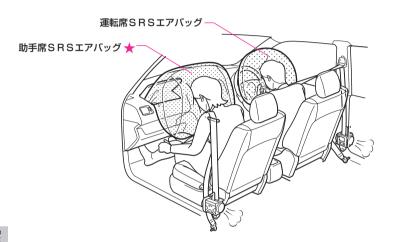
安全・快適装備の解説と注意

5

ＳＲＳ※エアバッグ

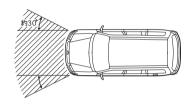
ＳＲＳエアバッグとは？

※ Supplemental Restraint Systemの略で「乗員保護補助装置」の意味。

運転席ＳＲＳエアバッグ・助手席ＳＲＳエアバッグは、運転者、または助手席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、乗員の頭や胸などに作用する衝撃を分散・緩和させる働きをするものです。

ＳＲＳエアバッグは、あくまでも乗員保護の補助装置でシートベルトの補助をするもので、ＳＲＳエアバッグの効果を発揮させるためには、正しい姿勢と正しいシートベルトの着用が絶対条件です。
また、正しく取り扱えば効果のあるＳＲＳエアバッグも、誤った取り扱いをすると効果を発揮しないばかりか、かえって乗員に傷害または死亡の危険をあたえるおそれがあります。

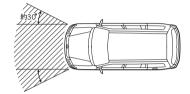
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ＳＲＳエアバッグの作動のしくみ

車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃は車両前方・車両中央床部に取りつけられたセンサーで感知し、ＳＲＳエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送り、ＳＲＳエアバッグが作動します。

車両前方にグリルガードなどを装着すると、センサーが正常に衝撃を感知できなくなり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動を損なうおそれがあります。

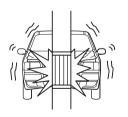
ＳＲＳエアバッグが作動するとき

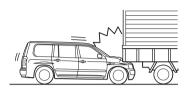
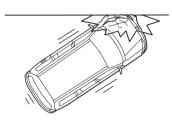
シートベルトを正しく着用している乗員が、重大な傷害を受けるおそれがあるような強い衝撃があった場合に作動し、重大な傷害を受けるおそれの少ない衝撃では作動しにくくなっています。

作動する場合

車両前方左右約30゜以内の方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

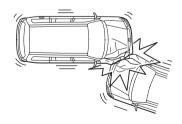
作動しにくい場合

次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。

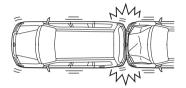
●衝突時に変形・移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても、衝突速度が約25km/h以下のときは作動しない場合があります。

●衝突時に変形・移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても、衝突速度が約30km/h以下の場合は作動しない場合があります。

次のような場合にも衝突による衝撃が緩められるため、作動しない場合があります。

●トラックの荷台下などへもぐりこみ衝突した場合。

●斜め前方から衝撃を受けた場合。

衝突したものが変形したり移動した場合は、衝突による衝撃が緩められるため、作動する車速は高くなります。

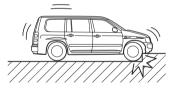
●例えば、停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、約50km/h程度の速度であっても、作動しない場合があります。

●衝突の方向（角度）や片側衝突（オフセット衝突）などによっては、さらに高い速度であっても、作動しない場合があります。

本来の効果を発揮しない場合

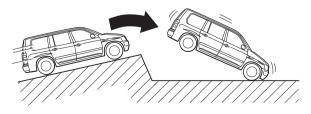
次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けた場合。

●車両が横転・転覆した場合。

車両下部に衝突を受けた場合

次のような車両下部に強い衝撃を受けたときには、作動する場合があります。

●縁石などにぶつかった場合。

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえた場合。

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下した場合。

⚠ 警告　ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●**ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。**
乗車するときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで前方に放り出されると同時にＳＲＳエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。シートベルトの正しい着用については、P.138をお読みください。
- シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。ＳＲＳエアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

<運転者のかたは>
運転操作ができる範囲でできるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。

<助手席乗員のかたは（助手席ＳＲＳエアバッグ装着車）>
助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。シートの調整、正しい運転姿勢についてはP.128をお読みください。

- ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。ＳＲＳエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔に当たったり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。

●助手席ＳＲＳエアバッグ装着車では、お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用させてください。
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、子供専用シートをリヤシートに装着してご使用ください。

⚠警告　ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- 助手席には子供専用シートをうしろ向きに絶対に取りつけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。(P.45参照)
- やむを得ず前向きにして助手席に子供専用シートを取りつける場合には、シートの前後調整位置を一番うしろにして取りつけてください。

- お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

●車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。これらの作業が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

- ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取りつけ・分解・修理などをしないでください。
- サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。
- 車両前部、または車両客室部の修理をしないでください。不適切な修理を行うと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなります。

警告　ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。

- 助手席ＳＲＳエアバッグ装着車では、インストルメントパネル上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ふくらんだときに飛ばされて危険です。

- 無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。

●ステアリングパッド・インストルメントパネル上部などＳＲＳエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意　ＳＲＳエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

●ＳＲＳエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、ＳＲＳエアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。

●ＳＲＳエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある人は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出られない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、ＳＲＳエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱いかたは、まれに皮膚を刺激する場合があります。

●助手席ＳＲＳエアバッグ装着車では、衝突したときなどに、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらむことによって、車両のフロントウインドゥガラスが破損することがあります。

●一度作動したＳＲＳエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。必ずトヨタ販売店で交換してください。同様に連続して衝突した場合、1回目の衝突でＳＲＳエアバッグが作動すれば、2回目の衝突ではＳＲＳエアバッグは作動しません。

●車やＳＲＳエアバッグを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。ＳＲＳエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグが収納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

●エンジン停止時およびＳＲＳエアバッグ作動時はフューエルポンプ制御が作動し、燃料供給を停止します。
燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してから、エンジンスイッチを一度“ ＬＯＣＫ ”にもどします。

シートベルト関係

シートベルトの働き

プリテンショナー＆フォースリミッター付シートベルト★

フロントシートベルト

●プリテンショナー機構は、前席の乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときに、シートベルトを瞬時に巻き取り、適切な乗員拘束効果の確保に役立ちます。
●フォースリミッター機構は、シートベルトの荷重を規定値に維持することで胸部への衝撃を緩和します。

プリテンショナー機構

【衝突初期にシートベルトを瞬時に巻き取る】

フォースリミッター機構

【衝突時規定荷重を維持しながらシートベルトを引き出す】

ＥＬＲ機構付シートベルト

3点式シートベルト

シートベルトは身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で身体が前に倒れそうなときは、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

警告 プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。

●プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとプリテンショナーが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトを正しく着用する。（P.138参照）
- シートを正しい運転姿勢の取れる位置に調整する。（P.128参照）

●プリテンショナー付シートベルトの取りつけ・取りはずし・分解などをしないでください。また、プリテンショナー付シートベルトを修理するときは、必ずトヨタ販売店で行ってください。プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリテンショナー付シートベルトが作動するとＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

注意 車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●プリテンショナー付シートベルトが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また、人体への影響もありません。

●車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

知 識

プリテンショナー付シートベルトの作動条件について

プリテンショナー付シートベルトは、車両前方から強い衝撃を受けたときに作動します。次のような衝撃が弱いときには、作動しない場合があります。

●コンクリートの壁に約25km/h以下の速度で正面衝突したとき。

なお､次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けたとき。

●車両が横転、転覆したとき。

作動後について

プリテンショナー付シートベルトは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

ＥＢＤ※1付ＡＢＳ ※2＆ブレーキアシスト★

ＡＢＳ＆ブレーキアシストとは？

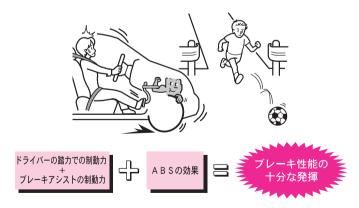
※1 Electronic Brake force Distributionの略で「電子制動力分配制御」の意味。
※2 Antilock Brake System（アンチロック・ブレーキ・システム）の略。

ＡＢＳは、急ブレーキをかけたときや、すべりやすい路面でブレーキをかけたときに起こるタイヤのロック（回転が止まること）を防ぐことによりスリップを抑制します。

左右輪で路面状態が違う場合

	乾いた路面	ぬれた路面
ＡＢＳあり		
ＡＢＳなし		

左右の車輪ですべりやすさが違う路面での偏向やスピンを抑え、安定して止まることができます。

ブレーキアシストは、
●緊急制動時の運転に不慣れな運転者が緊急制動するとき
●緊急制動時にパニック状態に陥ったとき
などのブレーキペダルが強く踏めず、ブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、ドライバーのペダル踏力を増加させ、制動力の確保に貢献する装置です。しかし、ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもその効果には限界がありますので、過信することなく安全運転を心がけましょう。

また、ＡＢＳ＆ブレーキアシストは、車輪に取りつけられたセンサーによりタイヤのロックを検出します。タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、Ｐ.69の**「タイヤについての注意」**をよくお読みください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ＡＢＳ＆ブレーキアシストが作動しているとき

運転について

●急ブレーキ時は、ＡＢＳ＆ブレーキアシストが効果を発揮するように、ブレーキペダルをできるだけ早く、強く踏み続けることが必要です。

●急ブレーキ時にポンピングブレーキ※をしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。
※ ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方。

思いきり踏む。

踏み続ける。

ゆるめたり、ポンピングはしない。

作動について

ＡＢＳが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

●ＡＢＳの作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルに振動を感じたり、車両停止後もモーター音が聞こえることがあります。

●ＡＢＳの作動が終了すると、ブレーキペダルが少し奥に入ったりすることがあります。

ブレーキアシストが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くかかるようになり、ＡＢＳが作動することがあります。

ＥＢＤの働き

ＡＢＳの制御技術を応用して、車両の走行状態に応じた適切な制動力を前後輪に配分します。これにより、積載時や減速度による荷重変化に応じ、前後輪の制動力配分を適切に行い、高いブレーキ性能を確保します。さらに、旋回中の制動時にも左右輪の制動力をコントロールして走行安定性の確保に貢献します。

警告　ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシストを過信しないでください。

●ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシストを過信しないでください。

ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。

- ＥＢＤ付ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※が起こった場合は、効果を発揮できません。

  ※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●ＥＢＤ付ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。

次の場合などは、ＥＢＤ付ＡＢＳのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。

- 砂利道、新雪路を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。

●ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。

知 識

作動条件について

●ＥＢＤ付ＡＢＳ＆ブレーキアシストは、車速が約10km/hをこえると作動できるようになります。また、車速が約5km/hまで下がると作動を止めます。
●雨の日に、マンホールのフタ・橋の継ぎ目・工事中の鉄板などの上でブレーキを踏むとすべりやすいため、ＥＢＤ付ＡＢＳが作動しやすくなります。

作動音について

●エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジンルームからモーター音や“カチッ”という音が聞こえることがあります。これは、ＥＢＤ付ＡＢＳの作動をチェックしているときの音で異常ではありません。
●ブレーキペダルを踏んだとき小さな打音が聞こえることがあります。これは、ブレーキアシストの機構が作動しているときの音で異常ではありません。

Vフレックスフルタイム4WD

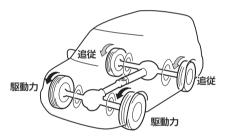
Vフレックスフルタイム4WDとは?

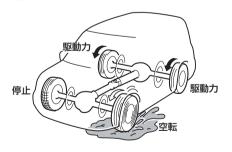
※ 4 Wheel Driveの略で「4輪駆動」の意味。

4WD車

通常はほぼＦＦ走行をし、コーナリング時や雪道、登坂時、発進時、加速時など前輪と後輪の回転差が発生するとビスカスカップリングの作用により、自動的に後輪に駆動力が伝達され、四輪駆動として走行します。
Vフレックスフルタイム4WDは、さまざまな路面に対応した駆動力を自動的に全輪にあたえ、安定した操縦性・安定性に寄与する装置です。

Vフレックスフルタイム4WDの取り扱い上の注意がP.64の**「4WD車についての注意」**に記載されていますので、よくお読みになり、正しい取り扱いを理解して安全運転に心がけるようにしましょう。

通常時（ＦＦ走行）

通常の直線走行など、前・後輪に回転差が微小な場合は、2WD（ＦＦ）に近い状態で走行します。

コーナリング時や雪道（4WD走行）

コーナリング時や雪道など前・後輪間に回転差が発生すると、ビスカスカップリングが作動し、後輪に駆動力が伝達され、4WD状態になります。
通常走行にもどると、2WDになります。

タイヤについて

Vフレックスフルタイム4WDは、タイヤの状態が車の性能に大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.69の**「タイヤについての注意」**をよくお読みください。

⚠ 警告　宙に浮いたタイヤを、むやみに空転させないでください。

●脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼きつきなどの損傷を受けたり、焼きつきにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイル漏れや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
  - 4輪の空気圧の差が著しいとき
  - 空気圧が指定値からはずれているとき
●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.291参照）
●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.330参照）

Super ＥＣＴ

Super ＥＣＴとは？

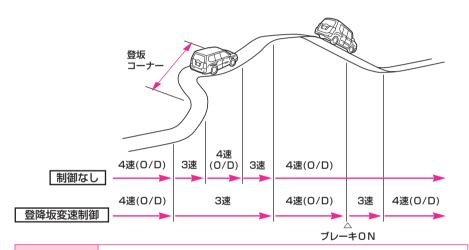
オートマチック車

フレックスロックアップシステムや登降坂変速制御システムなどにより、燃費性能と快適な走行を両立した電子制御オートマチックトランスミッションです。

フレックスロックアップシステムの働き

トランスミッションの伝達効率を上げ、燃費性能を高めるシステムです。
フレックスロックアップシステムを有効にご使用いただくためには、シフトレバーが**D**にあれば自動的に作動します。

登降坂変速制御システムの働き

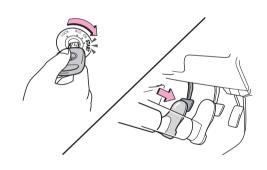
アップダウンのあるワインディング路などをO／Dで走行しているときに、登坂していると判断された場合、4速へのシフトアップを制限し、3速によるスムーズな走行を実現します。
また、降坂時では4速で走行しているときに、降坂していると判断された場合、ブレーキを踏むと自動的に3速にシフトダウンし、エンジンブレーキがかかります。

走行中、エンジン警告灯（P.198）が点灯したときは、オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

クラッチスタートシステム

クラッチスタートシステムとは？

マニュアル車

クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないと、キーを“ＳＴＡＲＴ”位置にまわしてもスターターモーターがまわらず、エンジンをかからなくした装置です。
ギヤがはいっている場合に、クラッチを踏まずにスターターをまわしたときに車が動き出すのを防止するシステムです。

●エンジンを始動するときは、正しい運転姿勢をとり、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んでから始動してください。正しい運転姿勢についてはP.128をお読みください。
●クラッチスタートシステム装着車では、エンストにより車が止まった場合、スターターによる車の移動はできませんので緊急時などはP.343の**「動けなくなったときは」**にしたがって行動してください。

6
車との上手な付き合い方

雨の日の運転について

雨の日の運転

すべりやすい路面は慎重に走行してください。

雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなるので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
●雨の日はハイドロプレーニング現象※でハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。
※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

警告　すべりやすい路面では、慎重に運転してください。

●すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●シフトアップ、シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

冠水した道路は走行しないでください。

大雨などで冠水した道路では、車両に重大な損傷をあたえるおそれがあるので走行しないでください。

警告

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
●ブレーキの効き具合。
●エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD車）、ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
●プロペラシャフト（4WD車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

寒冷時の取り扱い

冬の前の準備・点検

エンジンオイルを交換する

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。(P.329の**「推奨するエンジンオイル」**参照)

ウォッシャー液の濃度を調整する

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、購入されたウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

冷却水の濃度を調整する

冷却水の凍結を防ぐために冷却水濃度を調整してください。

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	−12℃
寒冷地	50%	−35℃

アルコール系不凍液や真水だけの使用はしないでください。

バッテリーの液量・比重を点検する

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。バッテリーの液量・比重を点検し、必要に応じて液の補充や充電をしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを準備する

- タイヤを取り替えるときは、必ずP.69の**「タイヤについての注意」**をお読みください。
- タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
- トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

寒冷地用ワイパーブレードを準備する

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。
- 寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時季は、通常のワイパーブレードを使用してください。

運転する前に

屋根に積もった雪は

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげになります。
走行する前に取り除いてください。

ガラスについた雪や霜は

ガラス内外の雪や霜を落として視界を確保してください。
デフロスターを使うと、ガラスを傷つけずに落とすことができます。

フロントウィンドウガラスについた氷を除去するために、たたいて割らないでください。フロントウィンドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

足まわりなどについた氷塊は

車体などに傷をつけないように取り除いてください。

外気取り入れ口に積もった雪は

フロントウインドゥ前部の外気取り入れ口に積もった雪を取り除いてから、エアコンのファンを作動させてください。
雪が積もったままで作動させると、ファンが故障したり、ガラスが曇ったりするおそれがあります。

ワイパーなどが凍結したときは

ワイパー・ドアミラー・ドアガラスなどが凍って動かない場合は、無理に動かさないでください。
スイッチを押し続けたりすると、装置をいためたり、バッテリーあがりを起こすおそれがあります。

ドアが凍結したときは

お湯をかけて氷を溶かしてください。なお、すぐに水分を十分拭き取ってください。無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。

靴についた雪をよく落とす

ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったり、凍結することがあります。

走行するときは

すべりやすい路面は慎重に走行してください

急発進・急ハンドル・急ブレーキなどは車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。ゆっくり発進し、控えめな速度で、車間距離を十分とって走行してください。
橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。

警告

シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フェンダー裏側についた氷は

ハンドル操作に影響しますので、ときどき確認し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキ装置についた氷は

ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

すべり止めは早めに

積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーン、または冬用タイヤを装着してください。タイヤを取り替えるときは、必ずP.69の**「タイヤについての注意」**をお読みください。

警告　**冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。**

- 指定サイズのタイヤを使用してください。
- 指定空気圧に調整してください。
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

タイヤチェーン

●タイヤチェーンは前2輪に取りつけてください。
●タイヤチェーンの取り扱い方法はタイヤチェーンに付属の取扱書にしたがってください。
●タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

■タイヤチェーンを取りつける前に

交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動し、パーキングブレーキをしっかりかけます。以下の手順により準備作業を行います。

〈手順〉

1 エンジンを停止します。

マニュアル車は、エンジンを停止し、シフトレバーをⓇに入れます。オートマチック車はⓅにし、エンジンを停止します。

2 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

3 工具を用意します。

ジャッキ・ジャッキハンドル・フルキャップ装着車はホイールナットレンチを用意します。（P.334の**「ジャッキ・工具・スペアタイヤの格納場所」**参照）

4 タイヤチェーンを用意します。

5 輪止めを用意します。

タイヤチェーンを取りつける場合には、輪止めが必要です。

●輪止めについては、トヨタ販売店にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

6 フルキャップ装着車は、ホイールキャップをはずします。

P.345の**「タイヤ交換のしかた」**参照。

警告 タイヤチェーン装着時は必ず慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は約30km/h、またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響をあたえるため、必ず慎重に走行してください。

●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。
また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

注意 タイヤチェーンを取りつけるときは、ホイールやホイールキャップに傷をつけないよう注意してください。

●フルキャップ装着車は、ホイールキャップをはずしてからタイヤチェーンを取りつけてください。ホイールキャップをつけたままタイヤチェーンを取りつけると、ホイールキャップに傷がつくことがあります。

●アルミホイール装着車は、アルミホイールにタイヤチェーンを取りつけると、ホイールに傷がつくことがあります。

●トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

駐車するときは

エンジンをかけたままにしない

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パーキングブレーキはかけない

寒冷時はパーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結してパーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあります。

■平らな場所に駐車するときは

パーキングブレーキをかけないで、シフトレバーをオートマチック車はⓅ、マニュアル車はⓇに入れ、輪止めをします。

■やむを得ず坂道に駐車するときは

下り坂では前輪の前側、上り坂では後輪のうしろ側に輪止めをして、パーキングブレーキをかけず、シフトレバーをオートマチック車はⓅ、マニュアル車は下り坂ではⓇ、上り坂では❶に入れます。

●輪止めについてはトヨタ販売店にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ボンネット側を風下に向ける

風の当たる部分は、想像以上に低温となりますので、バッテリー性能低下を防ぐためにもボンネット側をできるだけ風下に向けて駐車してください。

ワイパーアームは立てておく

降雪時は、寒さでワイパーがガラスに凍りついたりします。ワイパーアームは立てて駐車してください。

経済的な運転

環境にやさしく経済的な運転をするために

長時間停車するときは、エンジンを停止します。
5分間のアイドリングをやめて、ガソリン約65ccの節約。
▶CO_2 約420g削減（10回／月）

不要な荷物はおろして走行。
10kgの荷物をおろして50km走ると、ガソリン約15ccの節約。
▶CO_2 約130g削減（650km／月）

空ぶかしは禁物。
空ぶかしを1回やめて、ガソリン約6ccの節約。
▶CO_2 約1150g削減（300回／月）

エアコンは少し控えめに。
エアコンを6分間停止して、ガソリン約70ccの節約。
▶CO_2 約1340g削減（3時間／月）

タイヤの空気圧は、こまめにチェック。
適正値で50km走ると50kPa ｛0.5kg/㎠｝ 減のときに比べて、ガソリン約150ccの節約。
▶CO_2 約1250g削減（650km／月）

発進・加速はスムーズに。
急発進を1回やめてガソリン約17cc、急加速を1回やめて約11ccの節約。
▶CO_2 約360g削減（各20回／月）

経済速度でロスなし走行。
一般道路で40〜50km/h、高速道路では80km/hがベスト。
100km/hを80km/hにして、燃費が約10〜30%向上。
●法定速度を守り、安全運転を心がけてください。

たとえば加速
加速終了時にはアクセルを少し大きめにもどしてみましょう。
シフトアップやロックアップが確実にでき、効率が良くなります。

たとえば下り坂、減速
早めにアクセルをもどしエンジンブレーキを使いましょう。
ガソリンエンジンでは、燃料噴射の停止により、燃費が良くなります。

平地走行でも
アクセルペダルから思いきって足を離してみてください。
思ったほどスピードは落ちないものです。燃料噴射の停止を上手に活用しましょう。一定走行ならアクセルペダルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど、低燃費となります。

環境保護のために

使用済み部品・廃オイル類は適正な処理をする

●バッテリーは、鉛や硫酸が使われていますので、特定産業廃棄物として適切な処理が法律で義務づけられています。
バッテリー交換時は、購入した販売店で処分を依頼してください。

●タイヤは個人が燃やすなどすると、亜硫酸ガスなど有毒なガスを発生させます。
購入した販売店に処分を依頼してください。

●エンジンオイルは、放置しておくといずれ流れ出し、地下に浸透したり、水に浮き、環境を悪くします。
購入した販売店に処分を依頼してください。

●不凍液は、冷却水の凍結温度を下げるエチレングリコールが入っています。川などに流すと、水質汚濁の原因となりますので、不凍液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。

●エアコン冷媒用フロンガス（特定フロンガスＣＦＣ12）は、大気に放出されると、オゾン層の破壊を進めます。
トヨタでは、オゾン層を破壊しない代替フロンガス（ＨＦＣ134a）に全車切り替えを完了しています（93年完了）。
それでも、代替フロンガス（ＨＦＣ134a）は地球を温暖化する働きがあります。
エアコンの効きが悪い場合、ガスを充填するのみでなく、ガスもれの点検を併せて行い、もれ箇所を修理したうえで、ガス充填をしてください。

7 メンテナンス

車の手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

洗車・ワックス用品について

それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項などを必ずお守りください。

月に1度はワックスがけを行ってください

月に1度、または水のはじきが悪くなったら行ってください。

保管・駐車について

風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。

注意　塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のことをお守りください。

●塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のような場合はただちに洗車してください。
- 海岸地帯を走行したあと
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死骸などが付着したとき
- ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、科学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ほこり、泥などで激しくよごれたとき
- 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

外装の手入れ

洗車するときは

十分水をかけながら汚れを洗い落とし、洗い落としたあとは、水を拭き取ります。

●車体、足まわり、下まわりと、上から下の順に行います。
●車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗います。
●汚れのひどいときは、カーシャンプーを使用し、水で十分洗い流してください。
●はん点が残らないように、水を拭き取ります。

自動洗車機を使うときは

●ミラー、アンテナは格納し、前側から洗車してください。
●ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。

高圧洗車機を使うときは

●ノズルの先端をドアガラスなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、室内に水が入るおそれがあります。
●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

アルミホイールの手入れ

●中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください
●洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。
●光沢を失うおそれがありますので、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

ワックスがけをするときは

洗車後、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）に行います。

⚠警告 **エンジンルーム内に水をかけないでください。**

●エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品がショートして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
●寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。
●洗車後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

洗車をするときは、けがをしないように注意してください。

●下まわり、足まわりを洗うときは、手にけがをしないように注意してください。
●洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装などに傷がつきます。
●ランプのレンズ表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、硬いブラシなどでこすったりしないでください。破損したり、劣化を早めることがあります。
●目地のある素地部※に塗装用ワックスを使用しないでください。塗装用ワックスが付着すると、目地に入って取れなくなり、白くなることがあります。

※ 塗装されていないバンパー・ドアハンドル・ドアミラーなどの樹脂部分

内装の手入れ

室内の清掃

カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。

警告　車内に水をかけないでください。

●車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。ラジオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
●内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウィンドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意　クリーナーに含まれる成分に注意してください。

●内装の手入れをするときは、ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸、またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので、よく確認のうえ使用してください。
●芳香剤（液体・固体・ゲル状・プレートタイプなど）を、内装品（エアコンやオーディオなど）に直接触れさせたり、こぼしたりしないよう注意してください。含まれる成分によっては変色やしみ・塗装はがれの原因となるおそれがあります。
●リヤウインドゥの内側を清掃するときは、熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
●リヤウインドゥの内側を掃除するときは、熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。
●ガラスの内側を清掃するときは、コンパウンドが入ったガラスクリーナーを使用しないでください。清掃は、水、またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
●内装の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

エアコンガス（冷媒）の点検

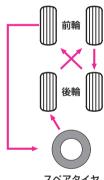
冷媒が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前に点検・補充をしてください。

●エアコンガスの点検・補充は、トヨタ販売店で受けてください。

タイヤローテーション

タイヤの磨耗を4輪ともに均等にし、寿命をのばすために、5,000kmごとにタイヤローテーションを行います。

●搭載されているジャッキを使用してタイヤ位置交換を行うときは、スペアタイヤを使用して1輪ずつ交換してください。

●タイヤローテーションを行ったあとは、指定空気圧に調整してください。指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表（P.319参照）、またはメンテナンスデータ（P.330参照）でご確認ください。

警告　タイヤローテーションをしたあとは、指定空気圧に調整してください。

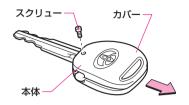
タイヤローテーションを行ったあとは、指定空気圧に調整してください。
とくに100kg以上積荷または4名乗車以上時のバンは、前後のタイヤで指定空気圧が異なるため、タイヤローテーションを行ったあとに必ず指定空気圧に調整してください。
指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

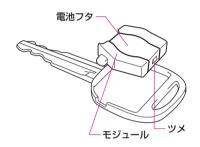
※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

注意　日常点検として必ずタイヤを点検してください。

●日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。（P.69**「タイヤについての注意」**参照）

●タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。（P.81**「その他の注意」**参照）

ワイヤレスドアロックのリモコンの電池交換★

1 カバーをはずします。

市販の精密ドライバーで、スクリュー（1本）をはずし、カバーを矢印の方向に押しながら取りはずします。

2 モジュールを本体から取り出します。

3 電池フタをはずします。

2カ所のツメをはずして、電池フタを取りはずします。

4 電池を交換します。

古い電池を取り出し、新しい電池の⊕側を上にして挿入します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

5 電池フタをはめます。
モジュールのＯリングがあるのを確認してから、電池フタをもとどおりにしっかりと取りつけます。

6 モジュールおよびカバーを取りつけます。
モジュールを本体の中にもどし、カバーを取りつけて、スクリュー（1本）でもとどおりにしっかりと締めつけます。

7 作動確認をします。
リモコンスイッチを押したとき、本体のＬＥＤが点灯することを確認します。

取りはずした電池や部品を（とくにお子さまが）飲みこまないようにご注意ください。飲み込むと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

電池および取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

- ●電池交換時にはスクリュー・Ｏリングなどの部品を紛失しないようにご注意ください。
- ●電池フタを曲げたりしないように注意してください。
- ●電池以外の部分にふれたり、動かしたりしないでください。
- ●電池の⊕極と⊖極は必ず正しい向きにして取りつけてください。
- ●電池挿入部の電極を曲げたり、モジュール内部にゴミや油などが付着しないように注意してください。
- ●Ｏリングは傷つけたり、ねじって取りつけたりしないように注意してください。

知 識

電池について

使用電池……リチウム電池ＣＲ1220
電池はトヨタ販売店・時計店・カメラ店などでお求めください。

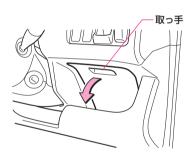
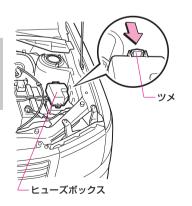
メンテナンス

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れやランプ自体の球切れが考えられます。
次の手順でヒューズの点検・交換を行ってください。
●ヒューズについてはトヨタ販売店にご相談ください。

ヒューズの点検・交換のしかた

1 エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”にします。

2 ヒューズボックスのカバーを開けます。
●ヒューズラベルがカバーに表示してあります。

■運転席側ヒューズボックス
取っ手を引いて、カバーを開けます。

■エンジンルーム内ヒューズボックス
カバー横のツメを押しながらカバーを持ち上げ、カバーをはずします。

3 ヒューズの点検をします。

故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズラベルで確認し、ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないかを点検します。

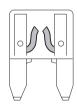
●ヒューズは車の仕様によりないものもあります。

4 ヒューズを交換します。

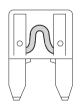
ヒューズが切れていたら、ヒューズラベルの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

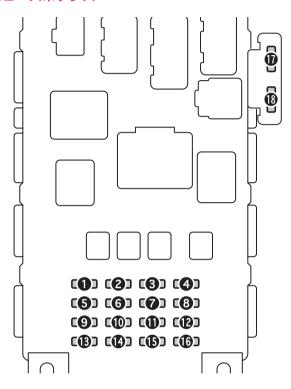
●ランプ類が点灯しないときは、電球切れも考えられます。

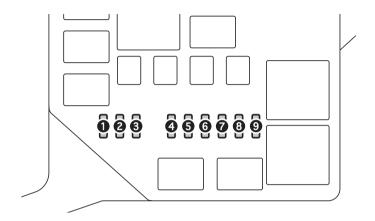
●以下の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 取り替えても再びヒューズが切れるとき。
- 取り替えても電気系統の装置が働かないとき。

切れた状態

切れていない状態

規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

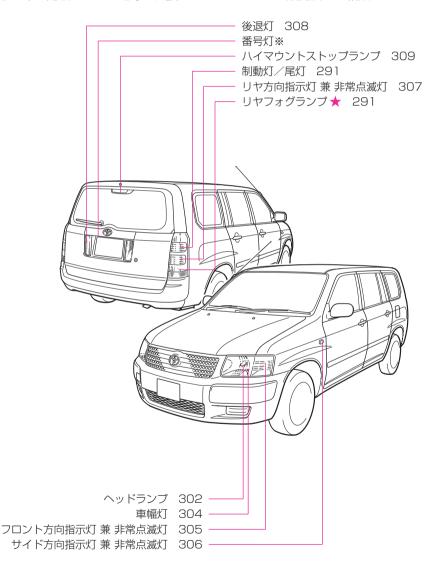
メンテナンス

ヒューズの受け持つ装置

■運転席側ヒューズボックス

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	ＧＡＵＧＥ	10A	メーター
❷	ＤＥＦ	20A	リヤウインドゥデフォッガー
❸	Ｄ／Ｌ	25A	ドアロック
❹	ＴＡＩＬ	7.5A	尾灯
❺	—	—	—
❻	ＷＩＰＥＲ	20A	ワイパー＆ウォッシャー
❼	ＥＣＵ－Ｂ	7.5A	ＡＢＳ
❽	—	—	—
❾	ＡＣＣ	15A	電動ミラー、オーディオ
❿	ＥＣＵ－ＩＧ	7.5A	ＡＢＳ、メーター
⓫	—	—	—
⓬	ＨＡＺ	10A	非常点滅灯
⓭	Ａ．Ｃ	7.5A	エアコン
⓮	—	—	—
⓯	ＩＮＶ	15A	アクセサリーコンセント
⓰	ＳＴＯＰ	10A	制動灯
⓱	Ｉ／ＵＰ	7.5A	エンジンコンピューター
⓲	—	—	—

■エンジンルーム内ヒューズボックス

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	ＢＡ（未使用）	—	—
❷	Ｈ－ＬＰ　ＲＨ	10Ａ	ヘッドランプ（右側）
❸	Ｈ－ＬＰ　ＬＨ	10Ａ	ヘッドランプ（左側）
❹	—	—	—
❺	ＳＴ	30Ａ	スターター
❻	ＡＭ2	15Ａ	ＡＢＳ
❼	ＨＯＲＮ	15Ａ	ホーン
❽	ＥＦＩ	15Ａ	エンジンコンピューター
❾	ＤＯＭＥ	15Ａ	室内灯

外装の電球（バルブ）交換

この車の外装には、下図で示した電球（バルブ）があります。
●ページ数が記載してある電球の交換については、該当ページをお読みください。
●※印が記載してある電球の交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。

電球は十分注意して取り扱ってください。

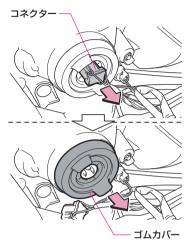
●ハロゲン電球はガラス内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。
●必ず同じワット数の電球を使用してください。（P.325参照）
●電球および電球固定具の取りつけは確実に行ってください。取りつけが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
●電球の交換をするときは、工具や電球、電球固定具、ソケットなどをなくさないように注意して作業してください。

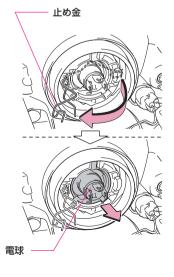
ランプの曇りについて

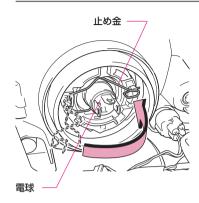
ヘッドランプなどのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

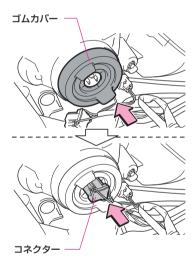
電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

ヘッドランプ

■取りはずしかた

1 ボンネットを開け、コネクターとゴムカバーを取りはずします。

2 止め金をはずし、電球を取りはずします。

※ 図は運転席側で説明しています。

■取りつけかた

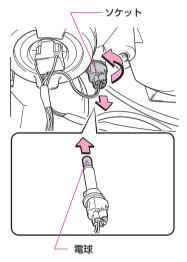
1 電球を取りつけ、止め金をかけます。

2 ゴムカバーをはめ込みます。

- ●ゴムカバー外周をしっかりとはめ込みます。
- ●ゴムカバー内周（電球周り）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込みます。

3 コネクターを差し込みます。

ゴムカバーが確実にはめ込まれていることを確認してください。ゴムカバーがしっかりはめ込まれていないとヘッドランプへの水入りの原因となります。

※ 図は運転席側で説明しています。

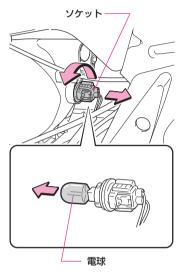
車幅灯

■取りはずしかた

ボンネットを開け、ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ソケットから電球を取りはずします。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

※ 図は運転席側で説明しています。

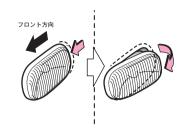
フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯

■取りはずしかた

ボンネットを開け、ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ソケットから電球を取りはずします。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

※ 図は運転席側で説明しています。

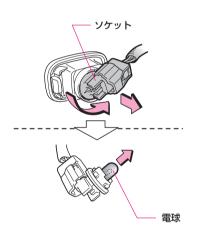
サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯

■取りはずしかた

1 **ランプ本体を取りはずします。**
ランプ本体を車両前方にスライドさせたまま、ランプ後部を手前に引いて取りはずします。

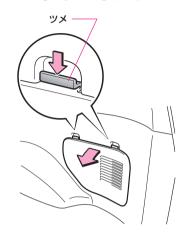
2 **ソケットを矢印の方向にまわして電球を抜き取ります。**

■取りつけかた

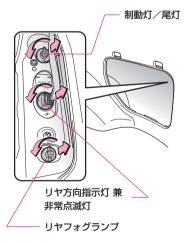
取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

注意

本体からソケットをはずすと、ソケットが車両内部に落ちやすくなります。落ちないように注意して作業してください。

※ 図は助手席側で説明しています。

リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯、制動灯／尾灯、リヤフォグランプ★

■取りはずしかた

1 **バックドアを開け、フタを取りはずします。**

ツメを押しながらフタをとりはずします。

2 **交換したい電球を取りはずします。**

ソケットを矢印の方向にまわして電球を取りはずします。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

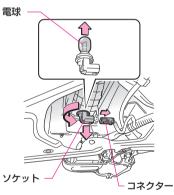
※ 図は運転席側で説明しています。

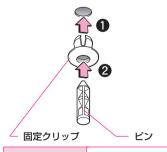
後退灯

■取りはずしかた

1 バックドアを開け、カバーと内張りをはずします。

●カバー裏に固定具（5個）があります。

●ピンを押し込んで、固定クリップ（カバー1個、内張り9個）をはずします。

2 ソケットを矢印の方向にまわして電球を抜き取ります。

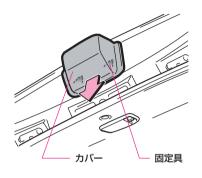
先にコネクターをはずします。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

固定クリップを取りつけるには、固定クリップを差し込み、ピンをはめ込みます。

注意　固定クリップのピンを必要以上に強く押し込まないでください。ピンが固定クリップからはずれ、抜けなくなるおそれがあります。

※ 図は助手席側で説明しています。

ハイマウントストップランプ

■取りはずしかた

1 **バックドアを開け、カバーをはずします。**

カバー裏に固定具（2個）があります。

電球

ソケット

2 **ソケットを矢印の方向にまわして電球を抜き取ります。**

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

日常点検

日常点検について

日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。日常点検は、簡単に点検できる項目になっていますので、長距離走行前や洗車時・給油時などを目安に実施してください。

ここでは、点検内容を簡単に説明します。

●基準値については、P.324の**「メンテナンスデータ」**をお読みください。

●点検方法および実施時の注意事項は、別冊の**「メンテナンスノート」**をお読みください。

エンジンルームの点検

ブレーキフルードリザーバータンク兼
クラッチフルードリザーバータンク

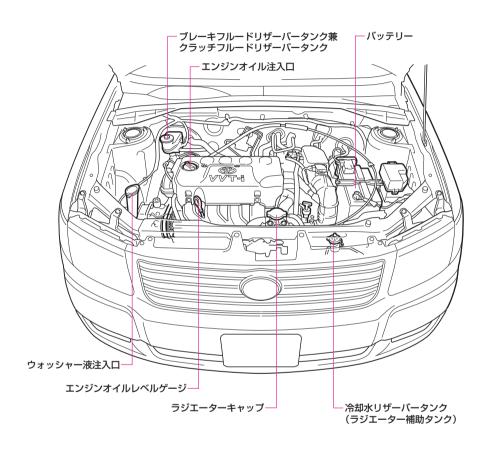
バッテリー

エンジンオイル注入口

ウォッシャー液注入口

エンジンオイルレベルゲージ

ラジエーターキャップ

冷却水リザーバータンク
（ラジエーター補助タンク）

点検や交換したあとは、工具や布などをエンジンルームに置き忘れていないことを確認してください。万一、置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

ブレーキの液量

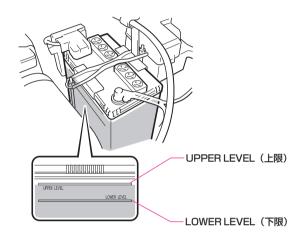
ブレーキフルードの量がリザーバータンクのＭＡＸとＭＩＮの間にあるかを点検します。

ブレーキフルードが不足していると、ブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

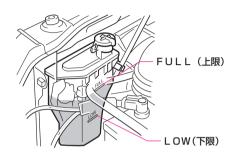
ブレーキフルードリザーバータンクについて

マニュアル車では、ブレーキフルードリザーバータンクがクラッチフルードリザーバータンクと共用になっています。

バッテリーの液量

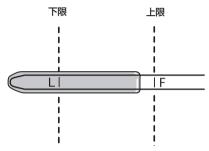
バッテリー液面が各液槽ともバッテリーのUPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間にあるかを車両をゆするなどして点検します。

	バッテリー液が不足すると、バッテリーあがりやバッテリー自体の損傷につながるおそれがあるため、定期的に点検してください。

冷却水の量

冷却水の量がリザーブタンク（補助タンク）のＦＵＬＬとＬＯWの間にあるかを点検します。

冷却水の交換はトヨタ販売店におまかせください。

- ●冷却水の交換はトヨタ販売店におまかせください。
- ●エンジン回転中、またはエンジン停止直後には、ラジエーター・リザーブタンク（補助タンク）に直接手などで触れないでください。高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- ●冷却水の量が不足しているとラジエーターの腐食やオーバーヒートによるエンジン破損のおそれがあるため、定期的に点検してください。また、水のみで使用していると、寒冷時に凍結し、ラジエーターなどに損傷を与えるため、必ずスーパーロングライフクーラント（不凍液）を適切な濃度でご使用ください。

エンジンオイルの量

エンジンオイルの量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。

警告 **エンジンオイルを点検・交換するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。**

●エンジンを止めてください。
- エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分にふれたり付近にいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジンオイルの温度が低いときに点検・交換してください。

●エンジンが止まっていても冷却水温が高いときは、エンジンオイルも高温になっており、やけどをするおそれがあり危険です。

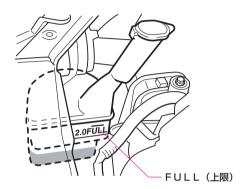
エンジンオイルは、定期的に点検・交換してください。

●定期的な点検を怠ると、オイル不足や劣化により回転部分が潤滑不良になり、焼きつきなどを起こしてエンジンに損傷をあたえるため、定期的に点検・交換をしてください。
- エンジンオイルはエンジン内部の潤滑・冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていても、ピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。

●オイルを補給するときは、入れすぎないように注意してください。

●エンジンオイルを点検するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように、布などを当てて点検してください。万一、オイルが付着したときは、完全に拭き取ってください。

ウインドゥウォッシャーの液量

ウォッシャータンク側面から、液面を確認します。
●液面が見えなくなったら、ウォッシャー液を補給してください。

■ウォッシャー液を補給するには

1 キャップを開けます。

ウォッシャー液注入口のキャップを開けます。

2 ウォッシャー液を補給します。

補給が終わったら、ウォッシャー液注入口のキャップを確実に閉めてください。

●ＦＵＬＬの位置をこえないように、補給してください。

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみになるおそれがあります。

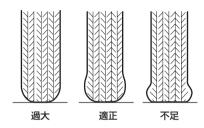
リヤワイパーのウォッシャー液の補給について

リヤワイパー用ウォッシャータンクはフロントワイパー用と兼用です。

車のまわりの点検

タイヤの点検については、P.69の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤの空気圧

タイヤが冷えている（走行前）状態でタイヤの接地部のたわみ状態（つぶれ具合）を見て、空気圧が適正であるかを点検します。

●月に1回程度は空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
●空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

※高速で走行している時に、タイヤが波うつ現象。

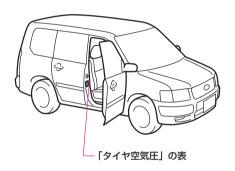
知識

指定空気圧について

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはメンテナンスデータ（P.330）でご確認ください。

●スペアタイヤも点検してください。

●指定空気圧でのたわみ状態を確認しておくと、タイヤを目視点検するときに参考になります。

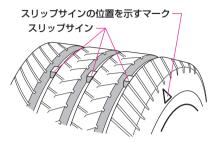
●指定空気圧の調整はタイヤが冷えているときに行ってください。

タイヤのき裂・損傷

タイヤの側面や接地部全周に著しい傷やき裂がないかを点検します。また、釘・石・その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検します。

警告　タイヤの側面などに傷やき裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

タイヤの溝の深さ、異常摩耗

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※

〈例：スリップサインが出ている状態〉※

タイヤ接地面に表示されているスリップサイン（摩耗限度表示）が現われていないかを点検します。また、極端な片べりなどの偏摩耗がないかを点検します。

※ 例のイラストは説明のためであり、実際とは異なります。

警告

摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※ 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

灯火装置・方向指示器の汚れ・損傷

各ランプのレンズに、汚れや破損・ヒビ割れなどがないかを点検します。

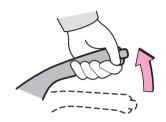
知 識

ランプの曇りについて

ヘッドランプ・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

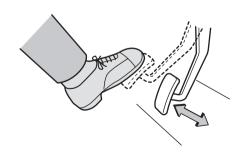
運転席に座っての点検

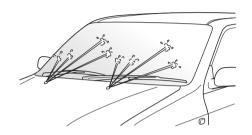
パーキングブレーキの引きしろ

パーキングブレーキが止まるまでゆっくりと引き、“カチカチ”音が基準値の範囲で止まるかを点検します。

エンジンのかかり具合

エンジン始動の際、異音がないか、かかり具合いは良いかを点検します。
また、アイドリング状態および少し回転を上げた状態で、異音がないかを点検します。

ブレーキペダルの踏みしろ

エンジンを始動し、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、床板とのすき間を点検します。併せてペダルの感触に異常がないかを点検します。

ウインドゥウォッシャーの噴射状態

エンジンを始動し、ウインドゥウォッシャーを作動させ、噴射状態を点検します。

ワイパーの払拭状態

ウインドゥウォッシャーでガラスをぬらした状態でワイパーを作動させ、「間欠作動」「低速作動」「高速作動」「一時作動」の各作動が良いか、拭き取り状態が良いか点検します。

灯火装置・方向指示器の作用

各灯火装置・方向指示器を作動させ、ランプが点灯・点滅するか、明るさが不足していないかを点検します。

走行しての点検

ブレーキの効き具合

通常走行時にブレーキをかけたとき、効きが十分か、片効きしないかを点検します。

走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（“キーキー”音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

エンジンの低速および加速の状態

通常走行で停車したとき、エンジン回転にむらがあったり、止まったりしないかを点検します。また、アクセルペダルを踏み込んだとき、なめらかに加速するかを点検します。

前日までの異常箇所の点検

前日までの使用時に異常があった箇所について、運行に支障がないかを点検します。

メンテナンスデータ

メンテナンスデータ

■点検基準値

<table>
<tr><th colspan="3">項　　目</th><th>メンテナンスデータ</th></tr>
<tr><td rowspan="2">ブレーキ
ペダル</td><td colspan="2">遊び［mm］
（負圧なしの状態）</td><td>1～6</td></tr>
<tr><td colspan="2">踏み込んだときの
床板とのすき間［mm］
〔踏力500N｛50kg f｝〕
（エンジンＯＮの状態）</td><td>50以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">クラッチ
ペダル</td><td colspan="2">遊び［mm］</td><td>5～15</td></tr>
<tr><td colspan="2">クラッチが切れたときの
床板とのすき間［mm］※</td><td>25以上</td></tr>
<tr><td>パーキング
ブレーキ</td><td colspan="2">引きしろ［ノッチ］
〔操作力200N｛20kg f｝〕</td><td>6～9</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Vリブド
ベルト</td><td>オルタネーターベルト</td><td rowspan="2">たわみ量［mm］
〔押力100N｛10kgf｝〕
（冷間時）</td><td rowspan="2">11～13</td></tr>
<tr><td>P／S
ベルト</td></tr>
</table>

※クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

■バルブのワット数

項　　目		メンテナンスデータ
電　　球	W（ワット）数	ヘッドランプ（ロービーム）……………55W ヘッドランプ（ハイビーム）……………60W 車幅灯 ……………………………………5W フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯………21W サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯 …………5W 番号灯 ……………………………………5W 制動灯／尾灯 …………………………21／5W リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯……………21W 後退灯 …………………………………16W リヤフォグランプ★ ……………………21W ハイマウントストップランプ ……………21W 室内灯 ……………………………………8W

■ウォッシャータンク容量

項　　目		メンテナンスデータ
ウォッシャータンク	容量［L］（参考値）	2.0

■燃料の量と種類

項　　目		容量（参考値）	指　定　燃　料
燃料	タンク容量［L］	50	無鉛 レギュラーガソリン

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

■冷却水、油脂類の容量と銘柄

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます。）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

項目		容量［L］（参考値）	指定銘柄
冷却水	M／T	4.4	トヨタ純正 スーパーロングライフクーラント ●凍結保証温度 濃度30%　－12℃ 濃度50%　－35℃
	A／T	4.3	
オートマチックトランスアクスルフルード（含むディファレンシャル）	ＦＦ車	6.8	トヨタ純正 オートフルードタイプT-Ⅳ
	4WD車	6.9	
トランスファーオイル	4WD車	0.9	トヨタ純正 ギヤオイルスーパー （API GL-5, SAE 75W-90）

メンテナンス

項　　目	容量［L］（参考値）	指定銘柄
マニュアルトランスアクスルオイル（含むディファレンシャル）	1.9	トヨタ純正 MGギヤオイル スペシャルⅡ（API　GL-3, SAE 75W-90）
リヤデファレンシャルオイル（4WD車）	1.7	トヨタ純正ハイポイドギヤオイルＳＸ（API　GL-5, SAE 85W-90）
パワーステアリングフルード	0.7	トヨタ純正パワーステアリングフルード
クラッチフルード	——	トヨタ純正ブレーキフルード 2500H
ブレーキフルード	——	トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

項　　目	容量［L］（参考値※1）		指定銘柄
	オイルのみ交換時充てん量	オイルとオイルフィルター交換時充てん量	
エンジンオイル	3.4	3.7	トヨタキャッスル モーターオイル SN 0W-20※2 （API SN,RC/ILSAC GF-5,SAE 0W-20） トヨタキャッスル モーターオイル SN 5W-20 （API SN,RC/ILSAC GF-5,SAE 5W-20） トヨタキャッスル モーターオイル SN 5W-30 （API SN,RC/ILSAC GF-5,SAE 5W-30） トヨタキャッスル モーターオイル SN 10W-30 （API SN,RC/ILSAC GF-5,SAE 10W-30）

※1:エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。
※2:0W―20は、新車時に充填されており、上記表の銘柄の中では最も省燃費性に優れるオイルです。

■推奨するエンジンオイル

ＡＰＩ規格ＳＮ／ＲＣ、SM／ECか、ILSAC規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

ＡＰＩマーク

ILSAC CERTIFICATIONマーク

●下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

外　気　温（℃）

外気温（℃）

※0W−20は、新車時に充填されており、上図の中では最も省燃費性に優れるオイルです。

■タイヤ、ホイールデータ

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="3">項目
タイヤサイズ</th><th colspan="4">ホイールサイズ</th></tr>
<tr><th colspan="2">リムサイズ</th><th rowspan="2">P.C.D.</th><th rowspan="2">オフセット量</th></tr>
<tr><th>スチールホイール</th><th>アルミホイール</th></tr>
<tr><td>バン</td><td>165R13-6PRLT</td><td rowspan="2">13×5J</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="3">100mm
×4(穴)</td><td rowspan="2">39mm</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ワゴン</td><td>165/80R13 83S</td></tr>
<tr><td>175/65R14 82S</td><td>14×5 1/2J</td><td>14×5 1/2JJ</td><td>45mm</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="3">項目
タイヤサイズ</th><th colspan="4">タイヤが冷えているときの
タイヤ空気圧［kPa ｛kg/cm²｝］</th></tr>
<tr><th colspan="2">前輪</th><th colspan="2">後輪</th></tr>
<tr><th>※1</th><th>※2</th><th>※1</th><th>※2</th></tr>
<tr><td rowspan="2">バン</td><td rowspan="2">165R13-6PRLT</td><td rowspan="2">220 ｛2.2｝</td><td>220 ｛2.2｝</td><td rowspan="2">220 ｛2.2｝</td><td>280 ｛2.8｝</td></tr>
<tr><td>240 ｛2.4｝ ※3</td><td>300 ｛3.0｝ ※3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ワゴン</td><td>165/80R13 83S</td><td colspan="4">210 ｛2.1｝</td></tr>
<tr><td>175/65R14 82S</td><td colspan="4">220 ｛2.2｝</td></tr>
</table>

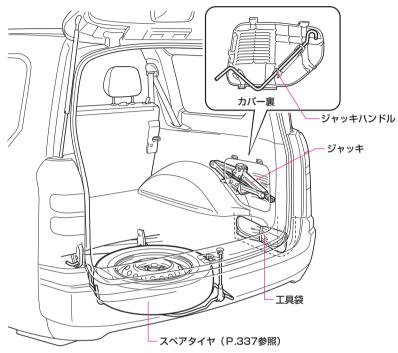
※1…空荷時
※2…100kg以上積荷（または4名乗車以上）
※3…FF車のオートマチック車

■車両仕様

<table>
<tr><th colspan="2">名称</th><th>型式</th><th>エンジン</th><th>駆動方式</th><th>グレード</th></tr>
<tr><td rowspan="6">サクシード</td><td rowspan="2">ワゴン</td><td>NCP58G</td><td rowspan="6">1NZ−FE
(1.5Lガソリン)</td><td>FF
(前輪駆動)</td><td>TX</td></tr>
<tr><td>NCP59G</td><td>4WD
(4輪駆動)</td><td>TX</td></tr>
<tr><td rowspan="4">バン</td><td rowspan="2">NCP51V</td><td rowspan="2">FF
(前輪駆動)</td><td>U</td></tr>
<tr><td>UL</td></tr>
<tr><td rowspan="2">NCP55V</td><td rowspan="2">4WD
(4輪駆動)</td><td>U</td></tr>
<tr><td>UL</td></tr>
</table>

万一のとき 8

工具・スペアタイヤ・発炎筒

ジャッキ・工具・スペアタイヤの格納場所

工具袋・ジャッキは、ラゲージルーム右側に、スペアタイヤはラゲージルーム床下に格納されています。
ジャッキ・工具の種類、発炎筒の使い方などは、万一のとき困らないようにあらかじめ確認しておきましょう。

●工具袋には次の工具が入っています。

警告 **工具やジャッキを使用したあとは、確実に格納してください。**

- 工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

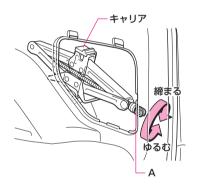
車に搭載されているジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外、使用しないでください。

ジャッキ・工具・スペアタイヤの取り出し方

ジャッキ・工具の取り出し方

1 **右側カバーを取りはずします。**

ラゲージルーム右側の、カバーのツマミを押しながら取りはずします。

●カバー裏側にジャッキハンドル、裏側スペースに工具袋が収納されています。

2 **ジャッキを取り出します。**

ジャッキのＡの部分をまわしてゆるめ、ジャッキを取り出します。

格納するときは、ジャッキがキャリアに固定するようにＡの部分を締めます。

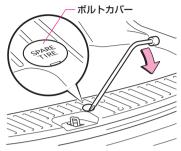
工具袋の収納スペースには、工具袋以外のものを収納しないでください。

●工具袋の収納スペースには、換気用の弁が取りつけられています。次の理由から工具袋以外のものを収納しないでください。

- 荷物が弁をふさぎ、換気性能が悪化し、ドアの閉りが悪くなるおそれがあります。
- 荷物で弁が押し開かれたままの状態になり、車内に排気ガスや水が進入するおそれがあります。

●工具・工具袋は必ず下記の点に注意して収納してください。工具が転がり、車体を傷つけるなどのおそれがあります。

- 工具は必ず工具袋に入れて収納する。
- 工具袋は収納スペースの最深部に横向きにして収納する。

スペアタイヤの取り出し方

■取り出すときは

1 ラゲージルーム後部床上のボルトカバーをはずします。

ホイールナットレンチの先端を、カバーの切り欠きに差し込み、下側にこじるとはずれます。

2 ボルトをゆるめます。

ホイールナットレンチを使用して、スペアタイヤ格納具をフックから取りはずせるぐらいまでゆるめます。

3 格納具を取りはずします。

格納具を少し持ち上げて、フックを手前に引いてはずし、格納具を足の上などに落とさないように注意して、地面におろします。

4 スペアタイヤを取り出します。

■格納するときは

1 **タイヤをスペアタイヤ格納具に載せます。**

2 **格納具をフックにかけます。**

3 **床上のボルトを締めつけます。**

●タイヤが確実に固定されていることを確認します。

●格納具がフックに確実に固定されるように、床上ボルトは十分締めつけてください。

4 **ボルトカバーを取りつけます。**

カバーの切り欠きが、車両後方になるように取りつけます。

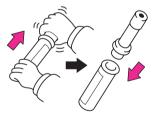
警告	格納具からタイヤを取りはずすときは、足の上などに落とさないように注意してください。足などを挟みけがをするおそれがあり危険です。

必ずスペアタイヤの点検を行い、異常があるスペアタイヤは装着しないでください。なお、指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.330で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。

発炎筒の使い方

格納場所

助手席足元に備えつけてあります。

発炎筒の使い方

1 発炎筒を組み立てます。

本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。

2 着火します。

キャップの頭部のすり薬でこすると、着火します。

警告　発炎筒は正しく取り扱ってください。

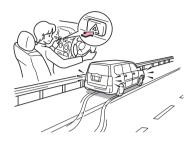
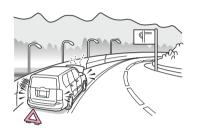
●発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。やけどなどにより、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。引火して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするので、トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。

発炎筒について

●発炎時間は約5分間ですので、非常点滅灯を併用してください。
●発炎筒には有効期間があります。本体に表示してある有効期間の切れる前にトヨタ販売店でお求めください。

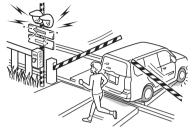
故障したときは

路上で故障したときは

非常点滅灯（P.216の**「非常点滅灯スイッチの使い方」**参照）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず、路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。（法的にも義務づけられています。）

緊急を要するときは発炎筒で合図します。
P.339**「発炎筒の使い方」**参照。

万一のとき

動けなくなったときは

踏切で動けなくなったときは

シフトレバーをⓃにして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。
脱輪などで動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは、発炎筒を使用してください。

●エンジン スイッチを“ＳＴＡＲＴ”で保持して、緊急避難的に車を動かすことはできません。

道路で動けなくなったときは

シフトレバーをⓃにして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

●エンジン スイッチを“ＳＴＡＲＴ”で保持して、緊急避難的に車を動かすことはできません。

●困ったときは、トヨタ販売店へご連絡ください。
「メンテナンスノート」のサービス網／お客様相談テレホン網をお読みください。

パンクしたときは

タイヤの交換

タイヤの交換については、P.69の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤ交換するまえに

1 **平らな場所に移動します。**
交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動します。

2 **パーキングブレーキをしっかりかけます。**

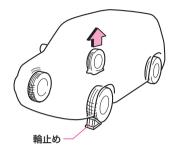
3 **エンジンを停止します。**
オートマチック車はシフトレバーをⓅにし、エンジンを停止します。
マニュアル車はエンジンを停止し、シフトレバーをⓇに入れます。

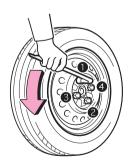
4 **車の存在を知らせます。**
必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

5 **ジャッキ・工具を取り出します。**
P.334～336参照。

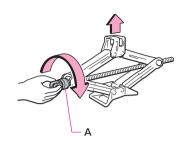
6 **輪止めを用意します。**
ジャッキアップする場合には輪止めが必要です。
輪止めについては、トヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

7 **スペアタイヤを用意します。**
P.337参照。

タイヤ交換のしかた

1 輪止めをします。
ジャッキアップする位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。
前輪を持ち上げるときは後輪のうしろ側に、後輪を持ち上げるときは前輪の前側に輪止めをします。（図は右側後輪を持ち上げる場合を示しています。）

2 ホイールキャップをはずします。
フルキャップ装着車は、ホイールナットレンチの先をホイールとキャップの間に差し込み、タイヤ側にこじるとはずれます。（2～3カ所、場所をかえて繰り返すと楽にはずせます。）
傷つき防止のため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いてください。

3 ナットをゆるめます。
ホイールナットレンチを使用して、図の順序でナットを左にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

4 ジャッキを置きます。
地面の平らな固くて安定したところにジャッキを置きます。

5 **ジャッキを上げます。**

ジャッキのＡの部分を手で右にまわして車体のジャッキセット位置まで上げます。

6 **ジャッキセット位置（切り欠きの間）にジャッキをかけます。**

取り替えるタイヤに近いジャッキセット位置にジャッキをかけます。
ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認します。

7 **ジャッキハンドルを取りつけます。**

ジャッキハンドルをジャッキの穴部に確実に差し込みます。

8 **ジャッキアップします。**

ジャッキハンドルを右にまわしてタイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。

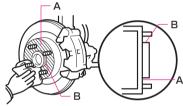
9 **ナットを取りはずします。**

手でナットを左にまわして、取りはずします。

10 **タイヤを取りはずします。**

11 **交換するタイヤを取りつけます。**

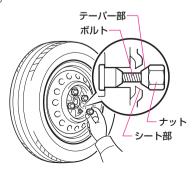
●タイヤを取りつけるときは、ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面の汚れを拭き取ってから取りつけてください。

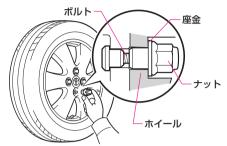
●図のＡ・Ｂ面の汚れを拭き取ります。

12 **ナットを仮締めします。**

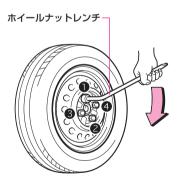
タイヤががたつかない程度まで、手でナットを右にまわして仮締めします。

ディスクホイール取りつけボルト、ナットのねじ部や、ナットのテーパー部（アルミホイールの場合、座金の裏側）の汚れ、異物を取り除いてください。

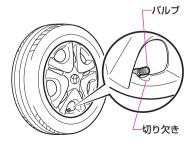
■スチールホイールからスチールホイールにかえるとき

ナットのテーパー部が、ホイール穴のシート部に軽く当たるまで仮締めします。

■アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールに当たるまで仮締めします。

13 車体をおろします。

ジャッキハンドルを左にまわして車体をおろします。

14 ナットを締めつけます。

ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを右にまわし、2〜3度にわたり十分締めつけます。

●締めつけトルク：
103N・m｛1050kgf・cm｝

15 ホイールキャップを取りつけます。

●フルキャップ装着車では、タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取りつけます。

16 工具・ジャッキ・タイヤを片づけます。

17 タイヤの空気圧を点検してください。

P.330参照。

⚠ 警告　パンクしたまま走行しないでください。

●パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイール・サスペンション・車体に損傷をあたえるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。
●ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。エンジンの振動でジャッキがはずれたり、車が動き出すなど、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないと車体を損傷させたり、ジャッキがはずれ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。
- 人を乗せたままジャッキアップしないでください。
- ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
- ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。
- 車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。

●ジャッキアップした車体をおろすときは、作業者自身やまわりの人が手や足などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。
●ホイール取りつけナットが確実に締まっていることを確認してください。確実に締まっていないと、ホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締めつけトルク：103N・m ｛1050kgf・cm｝
●ナットを取りつけるときは、必ずテーパー部を内側にして取りつけてください。（P.72参照）

警告　タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。

●タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タイヤの取りつけには、ご使用のディスクホイール専用のホイール取りつけナットを使用してください。
●ディスクホイール取りつけボルト、ナットのネジ部やディスクホイールのボルト穴につぶれやき裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。
つぶれやき裂などの異常があると、ナットを締めつけても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●新品と交換するときは、4輪とも指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
●アルミホイール装着車のナットはトヨタ純正アルミホイール専用品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあります。

注意　ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。

●ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締めつけるときにレンチがはずれてけがをするおそれがあります。
●ホイールキャップは、直接手をかけて取らないでください。また、取り扱いには十分注意してください。けがをするおそれがあります。
●フルキャップ装着車のホイールキャップをはずすときは、ホイールナットレンチ以外は使わないでください。ディスクホイール・ホイールキャップが損傷するおそれがあります。
●ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面がほこりなどで汚れていると、走行中にホイール取りつけナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。
●ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。
●傷・変形があるホイール取りつけナット・ディスクホイールなどは使用しないでください。
●タイヤ交換後、走行中にハンドルや車体に振動が出た場合は、トヨタ販売店でタイヤのバランスの点検を受けてください。

バッテリーがあがったときは

バッテリーあがりとは？

次のような状態が、バッテリーあがりです。

- スターターがまわらなかったり、まわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ヘッドランプがいつもより暗い。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。

処置のしかた

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼しブースターケーブルを接続して、エンジンを始動してください。なお、救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

1 ブースターケーブルをつなぎます。

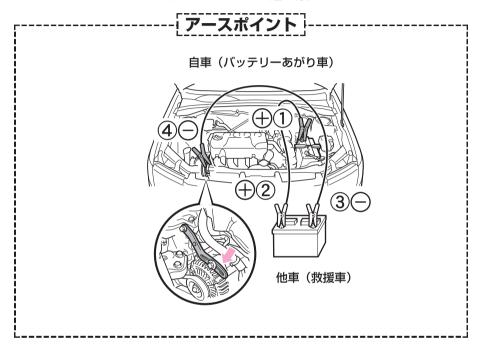
バッテリーの⊕端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぎます。

①自車のバッテリーの⊕端子
②救援車のバッテリーの⊕端子
③救援車のバッテリーの⊖端子
④次ページの図で指示している箇所（アースを取る。）

2 バッテリーを充電します。

救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持し、応急的に自車（バッテリーあがり車）のバッテリーを充電します。

3 自車のエンジンをかけます。

4 **ブースターケーブルをはずします。**
ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。

バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンを停止したままランプをつけたり、オーディオ・エアコンなどを使わないようにしてください。
●エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不必要な電装品の電源を切ってください。

⚠警告　火気をバッテリーに近づけないでください。

●必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないとバッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなどにより、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ④の接続は自車バッテリーの⊖端子につながないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生します。
- ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。接触させると火花が発生します。
- 火気をバッテリーに近づけないでください。

●充電中はバッテリーに近づかないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合は、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受けてください。

●ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ファンやベルトなどに触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●バッテリーを交換したときは、クランプのナットを確実に締めつけてください。確実に締めつけないと、走行中にクランプがはずれて、ショートするなどして車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠注意　救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

●他車（救援車）のバッテリーは12Vでなければなりません。12V用バッテリーであることを確認してから行ってください。

●バッテリーがあがりやすい場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートとは？

次のような状態が、オーバーヒートです。
- ●高水温警告灯（P.202）が点滅したり、エンジンの出力が低下する。
- ●ボンネットから蒸気が立ちのぼる。

処置のしかた

1 車を止めます。

車を安全な場所に止め、エアコンを使用している場合は、ファンを停止します。

2 ボンネットの確認をします。

ボンネットから蒸気が出ているか確認します。

■ボンネットから蒸気が出ていない場合

ボンネットを開けて、そのままエンジンをかけておきます。

■ボンネットから蒸気が出ている場合

エンジンを停止し、蒸気が出なくなったら、風通しを良くするためにボンネットを開けエンジンをかけます。

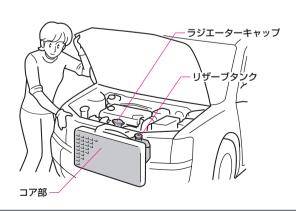
3 冷却用ファンを確認します。

ラジエーター冷却用ファンが作動していることを確認してください。ファンが作動していないときはエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡してください。

4 エンジンを停止します。

高水温警告灯が消灯したら、エンジンを停止します。

5 冷却水量などを確認します。

エンジンが冷えてからラジエーターキャップをはずし、ラジエーターとリザーバータンクの冷却水量の確認およびラジエーターコア部（放熱部）が著しく汚れていないか、ごみなどが付着していないかなどを確認します。

6 冷却水を補給します。

冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補給します。

●冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

7 トヨタ販売店で点検を受けます。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

●移動途中で再び高水温警告灯が点灯したときは、空調の温度調整を最大暖房にし、ファンを最大風量にしてください。ヒーター配管内の冷却水により水温の上昇を抑えることができます。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水もれがないか日頃から点検をしてください。
点検方法は**「メンテナンスノート」**をお読みください。

警告　やけどなどしないように十分気をつけてください。

- ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどにより、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。
- ラジエーターやリザーブタンク（補助タンク）が熱いときはラジエーターキャップ・エア抜きバルブを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなどにより、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。キャップ・バルブを開けるときは、ラジエーターやリザーブタンク（補助タンク）が十分に冷えてから、布きれなどでキャップ・バルブを包みゆっくりと開けてください。
- エンジンがまわっているときは、ファンやベルトなどに触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

けん引について

けん引のしかた

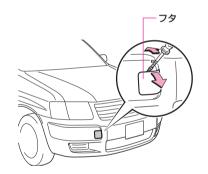
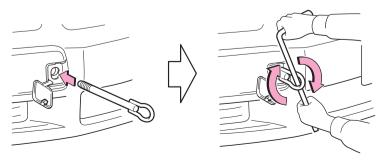
このけん引フックはけん引されることを目的としており、他車をけん引するものではありません。

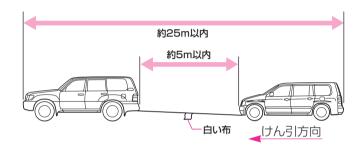
けん引してもらうときは、できるだけトヨタ販売店、またはＪＡＦなどに依頼してください。とくに次の場合は駆動系の故障が考えられますので、けん引される前にまずトヨタ販売店へご連絡ください。

●エンジンがまわっているのに車が動かない。

●異常な音がする。

1 けん引フック、ホイールナットレンチを取り出します。（Ｐ.334～336参照）

2 フタとバンパーのすき間入る程度の薄刃の⊖ドライバー先端に、バンパー傷つき防止のために薄手のテープを巻いて、フタをはずします。

3 けん引フックをホイールナットレンチを用いて確実に取りつけます。

4 ロープをかけます。

ボディに傷をつけないようにして、ロープをけん引フックにかけます。必ずけん引フックにロープをかけて前進方向でけん引してください。けん引ロープには、0.3メートル平方（0.3m×0.3m）以上の白い布をロープ中央に必ずつけてください。

5 エンジンをかけます。

エンジンをできるだけかけておいてください。エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ ON ”にします。

6 発進します。

シフトレバーをⓃにして、パーキングブレーキを解除します。

7 前の車に注意します。

けん引ロープをたるませないようにし、前の車の制動灯に注意してください。

⚠警告 けん引される車は慎重に運転してください。

●けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンキーを抜いたり、エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”にしないでください。キーが抜けていると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、“ＬＯＣＫ”だとキーが抜けるおそれがあります。
●けん引する車は急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。また、万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害をあたえるおそれがあり危険です。

注意 長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。

●長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。
●4WD車の場合、4輪接地でけん引するか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼きつきを起こしたり、車がトレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず4輪を持ち上げて運搬してください。

●オートマチック車の場合、けん引速度・約30km/h以下、けん引距離・約80km以内で、前進方向でけん引してください。この速度、距離をこえてのけん引、または後進方向でのけん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがありますので、これらの場合は車両積載車などにより、4輪とも持ち上げて運搬してください。
●スタック脱出のために、他車にけん引してもらうときは、サスペンションアームなどにロープをかけないでください。サスペンションアームなどを損傷するおそれがあります。
●ワイヤーロープは使用しないでください。バンパーに傷がつくおそれがあります。
●スタック※したときは、無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。
※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

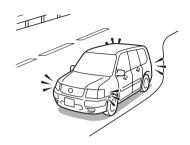
固縛用フックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。けん引には絶対使用しないでください。けん引に使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。この車で他車をけん引することはできません。またフロントのけん引フックを、固縛用として使用しないでください。

知識

寒冷地仕様車の固縛用フック（緊急用フック）について

寒冷地仕様車のリヤの固縛用フックは、緊急用フックとしても使用できます。緊急用フックとは、雪の吹きだまりなどでスタックして、走行できなくなったときに、緊急的に他車に引っ張り出してもらうときに使用するためのものです。
この車で他車をけん引することはできません。

事故が起きたときは

あわてずに次の処置を行ってください

1 続発事故を防止します。
ほかの交通のさまたげにならないような安全な場所に車を移動し、エンジンを停止します。

2 負傷者がいる場合は、応急手当を行います。
医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。

3 警察への届け出をします。

4 相手方の確認とメモ（氏名・住所・電話番号）を取ります。

5 ご購入された販売店と保険会社へ連絡します。

車両を緊急停止するには

緊急停止のしかた

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

1 **ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。**
ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常よりも強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 **シフトレバーをⓃに入れます。**

■シフトレバーがⓃに入った場合

3 **減速後、車を安全な道路脇に停めます。**

4 **エンジンを停止します。**

■シフトレバーがⓃに入らない場合

3 **ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。**

4 **エンジンスイッチを“ＡＣＣ”にして、エンジンを停止します。**

5 **車を安全な道路脇に停めます。**

⚠ 警告 **走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください。**

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

さくいん

五十音さくいん

症状から調べたいときは、色つき文字の項目をお読みください。

あ行

症状から調べたいときは、色つき文字の項目をお読みください。

か行

症状から調べたいときは、色つき文字の項目をお読みください。

さ行

症状から調べたいときは、色つき文字の項目をお読みください。

た行

症状から調べたいときは、色つき文字の項目をお読みください。

な行

は行

症状から調べたいときは、色つき文字の項目をお読みください。

症状から調べたいときは、色つき文字の項目をお読みください。

ま行

や行

ら行

症状から調べたいときは、色つき文字の項目をお読みください。

わ行

警告灯さくいん

サクシード バン&ワゴン

ノ-79

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター
全国共通・フリーコール
0800-700-7700
オープン時間　365日　9:00~18:00
所在地　〒450-0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。

●印刷　IB-2012年 4 月19日　●発行-2012年 4 月26日　初版

M 52D01
01999―52D01